

RY

昭和61年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
——経済開発セミナー——

昭和61年10月

国際協力事業団
研修事業部

JICA LIBRARY



1010226L7J

国際協力事業団		
受入 月日	87. 1. 22	000
登録 No.	15846	34
		TAD

はじめに

この報告書は、我が国の技術協力計画に基づき国際協力事業団が実施してきた経済開発セミナーに参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、昭和61年8月4日から8月24日までの21日間、ペルー、パラグアイ及びブラジルの3ヶ国に派遣したフォローアップチームの業務報告である。

本報告書が、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等について関係各位の一人層の深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コース、又、研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

尚、本件フォローアップ実施のためにご協力を賜った外務省、経済企画庁及び現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館並びに関係機関の皆様へ深甚の謝意を表したい。

昭和61年10月

研修事業部

部長 岡部和夫



ペルー：

日秘文化会館におけるセミナー風景

ブラグアイ：

芭日協会におけるセミナー風景



ブラジル：

ポルトアレグレ市内ホテルにおけるセミナー風景



目 次

はじめに

I 派遣チームの概要	1
1 派遣目的	1
2 調査指導事項	1
3 派遣国及び派遣期間	1
4 派遣メンバー	1
5 調査日程	2
II フォローアップ調査内容	4
1 帰国研修員の動向及び現況	4
1) ペル ー	4
2) パラグアイ	5
3) ブラジル	6
2 帰国研修員に対する調査結果について	7
1) 質問書の集計・分析結果	7
2) 帰国研修員による研修内容に対する要望及び改善点	10
3 研修員候補者の選定について	11
4 研修コースの問題点及び改善への提言について	12
III 公開セミナーの実施	14
1 国別実施状況	14
1) ペル ー	14
2) パラグアイ	14
3) ブラジル	15
2 セミナー講演内容	16
IV 最近の経済情勢	42
1 訪問3ヶ国の主要経済指標	42
2 ペル ー 編	42
3 パラグアイ編	44
4 ブラジル編	45

V	ま と め	48
VI	関 連 資 料	49
1	経 済 開 発 セ ミ ナ ー の 概 要	50
2	経 済 開 発 セ ミ ナ ー 国 別 研 修 員 受 入 実 績 表	53
3	昭 和 6 0 年 度 経 済 開 発 セ ミ ナ ー ・ カ リ キ ュ ラ ム	54
4	昭 和 6 0 年 度 経 済 開 発 セ ミ ナ ー 終 了 時 の エ バ リ ュ エ ー シ ョ ン 集 計 結 果	57
5	フ ォ ロ ー ア ッ プ チ ー ム 派 遣 に 係 る 研 修 事 業 部 長 書 簡 及 び 質 問 書	64
6	英 文 所 見	
1)	ペ ル ー	76
2)	パ ラ グ ァ イ	83
3)	ブ ラ ジ ル	89
7	帰 国 研 修 員 リ ス ト	
1)	ペ ル ー	93
2)	パ ラ グ ァ イ	94
3)	ブ ラ ジ ル	95

I 派遣チームの概要

1 派遣目的

本フォローアップチームは、経済開発セミナーに参加した帰国研修員の所属機関及び関係機関を訪問し、我が国で履習した研修の成果の測定、当セミナーに対する意見や要望等を聴取するとともに現地公開セミナーを実施する一方、経済分野に於けるペルー、パラグアイ及びブラジルの開発上の問題点・ニーズを把握することにより今後のセミナーの内容及び運営上の改善に資することを目的として派遣された。

2 調査指導事項

- 1) 帰国研修員へ配布した質問状及び関係者との面談を通じ、研修員の帰国後の動向及び研修ニーズの調査
- 2) 公開セミナーによる我が国経済計画、実施上の問題についての講演・質疑応答
テーマ 「我が国経済計画の変遷」
「我が国経済の当面の課題」
- 3) 各国経済事情関係収集

3 派遣国及び派遣期間

- 1) 派遣国：ペルー、パラグアイ、ブラジル
- 2) 派遣期間：昭和61年8月4日～同年8月24日（21日間）

4 派遣メンバー

小林 勇 造 （団長・総括，セミナー講師） 経済企画庁調整局経済協力第二課長
小 嶋 弘 子 （団員・各種調査） 経済企画庁調整局経済協力第二課主査
川 上 兼 弘 （団員・業務調整） 国際協力事業団研修事業部研修第三課副参事

5 調査日程

日順	月日	曜日	行程	交通手段	宿泊地	調査内容及び面会者
1	8/4	月	17:45 東京CP004	by air		移動
2	5	火	(A. M.) OECF 大使館, JICA, (P. M.) OECF 大使館, JICA,		"	敬大使表敬, 笹野 JICA 所長・寛所員打合せ, 上林 OECF 首席駐在員打合せ
3	6	水	中部産業公社 中央準備銀行		"	CARLOS E. BARDALEZ 中部産業公社輸出部長代理, GERMAN SUAREZ CHAEZ 中央準備銀行経済調査担当取締役表敬, 研修員動向調査
4	7	木	資料整理		"	資料整理
5	8	金	セミナー開催 英文所見作成		"	セミナー開催(於: 日秘文化会館), 研修員懇談会, 英文所見作成
6	9	土	資料整理		"	資料整理
7	10	日	00:30 リマ → RG902 12:05 アスンシオン	by air	アスンシオン	移動
8	11	月	企画庁, 大使館 JICA 農牧省		"	Fulvio Monges Ocampos 企画庁長官・Lic Guillerma Sosa 企画庁技術協力部調査官表敬, 宇野参事官表敬, 西野 JICA 所長・中島業務第二課長・岸所員打合せ, Ing. Agr. Oscar Meza Rojas 農牧省技術官房局長表敬, 研修員動向調査
9	12	火	中央食品卸売市場 牧畜基金, 水道公社		"	所屬先訪問・表敬, 研修員動向調査, セミナー開催(於: 芭日協会), 研修員懇談会, 英文所見作成
10	13	水	アスンシオン ストロエスネル イタイプーダム視察	by car	ストロエスネル	移動, ダム視察
11	14	木	フォストダイアス RG903 19:05 サンパウロ	by air	サンパウロ	移動
12	15	金	総領事館, JICA 州立経済計画局		"	小野総領事・福寿副領事表敬, 北村 JICA 所長・川上業務第一課長・楠崎総務課長打合せ, Antonio Marcio F. Costa サンパウロ州立官房局長補佐表敬, 研修員動向調査
13	16	土	資料整理		"	資料整理, 研修員懇談会

日順	月日	曜日	行程	交通手段	宿泊地	調査内容及び面会者
14	8/17	日	12:00 サンパウロ → 13:30 ブラジリア	by air	ブラジリア	移 動
15	18	月	大使館, JICA サンフランシスコ 河津城開発公社		"	賀来公使・内田参事官表敬, 鈴木JICA所長打合せ, 所属先訪問, 研修員動向調査
16	19	火	7:30 ブラジリア → 12:25 ポルトアレグレ 総領事館 JICA	by air	ポルトアレグレ	移 動, 高畑総領事表敬, 竹中JICA所長打合せ
17	20	水	南ブラジル銀行 セミナー開催		"	州立経済統計基金総表敬, 研修員動向調査, セミナー開催, 研修員懇談会
18	21	木	9:00 ポルトアレグレ → 11:45 リオデジャネイロ 総領事館, JICA	by air	リオデジャネイロ	伊藤総領事・述川領事表敬, 加茂JICA所長・金子課長打合せ
19	22	金	国立経済社会開発銀行, 英文所見作成 23:55 リオ	by air		所属先訪問, 表敬, 研修員動向調査, 英文所見作成
20	23	土				移 動
21	24	日	13:15 東京			移 動

II フォローアップ調査内容

1. 帰国研修員の動向及び現況

1) ベルー

(1) 所属機関, ポスト等

No	氏名	研修当時の勤務先	現在の勤務先	研修参加期間
①	MR. JORGE VILLAORDUNA	Industrial Engineering Dept. Empresa Minera del Centro del Peru	輸出部長代理 所属先同左	'81.5/21-'81.6/29
2	MR. LUIS PONSE	Director of Programming Oficina Sectorial de Planificacion Secretary of State of Integration MICTI	死 亡	'80.5/22-'80.6/30
③	MR. ERNESTO CHOY LO	Academic Assistant Project Development Program National Planning Institute	コンサルタント JUNTA DEL DE CARTAGENA	'79.9/12-'79.10/23
4	MR. ALBERTO SALAZAR VIRU	Director Oficina Evaluacion de Proyectos Ministerio de Pesqueria	顧問, SERVICIO DE INTELIGENCIA NACIONAL	'76.6/7 -'76.7/13
5	MR. MOISES ROSAS ROSAS	Director of Direction Operation Control Inspectoria General Ministerio de Comercio	不 明	'75.4/10-'75.5/20
⑥	MISS ROSA ROMERO CORCUERA	Office Ministerio de Industrial Y Turismo	職員, 米州機構ワシントン本部	'73.4/8 -'73.5/19 (USA 在住)
⑦	MR. ADALBERTO VARGAS	Asst. Coordinator of BAYOVAR Units in Lima Ministerio de Industrial Y Turismo	研究・技術協力部長 所属先同左	'73.4/3 -'73.5/19
8	MR. JUAN FERNANDO LORE	Director de Estudios Especiales Direccion General de Asuntos Economicos	不 明	'72.4/12-'72.5/21
9	MR. LUIS GEULFO ZENDER	President de Banco Industrial del Peru	"	'69. / -'69. /
⑩	MR. EMILIO COSTA	Chief of Balance of Payments Section Banco Central de Reserva del Peru	顧問, CONSORCIO GERENCIAL S.A.	'68.4/10-'68.6/9
11	MR. JOSE LYNCH	Technical Coordinator	不 明	'67.1/11-'67.3/10
12	MR. JOSE LUIS BROUSSET ESCOBAR	President de Banco Popular del Peru	社長, ベルー証券銀行	'67.1/11-'67.3/10
13	MR. ARMANDO GALLEGOS	President of Directory	不 明	'67.1/10-'67.3/9
14	MR. JOSE LIZARRAGA REYES	Director Officer of Natural Resources Evaluation	"	'65.9/28-'65.10/13
⑬	MR. CARLOS ZAZUANACA	Professor of Economic Development Technical University, Lima	部長, CENTRO PERUANO DE INVESTIGACION APLICADA	'65.9/24-'65.11/
⑭	MR. FELIPE CEBREAS	Economic Adviser	理事顧問 ベルー中央準備銀行	'65.1/7 -'65.3/66

○ : 質問状回収

✓ : 面談者

(2) 現況及び研修の評価

ベルーにおける当セミナー参加者は、過去20年間で16名であるが今回の調査を通じてそのうち10名の帰国研修員の動向が判明した。動向が判明した10名の帰国研修員のうち2名を除き他は所属先を変更しているも、彼らの主たる所掌業務は、技術・経済協力業務、貿易振興業務、財政・経済顧問業務等であり、面談者全員がセミナー参加を機会に仕事に対する責任、将来の展望、視野の拡大、転職等に何らかの形で有益性を明らかにしており、セミナーに対する評価は全般的に極めて高かった。

2) パラグアイ

(1) 所属機関, ポスト等

No	氏名	研修当時の勤務先	現在の勤務先	研修参加時期
1	MR.TITO P.ROJAS CARDOZO	Secretaria Tecnica de Planificacion del Desarrollo Economico Y Social de la Presidencia de la Republica	同 左	'85.9/5 - '85.10/23
2	MR.MANUEL MINARDI	Coordinador Secretaria tecnica de planificacion Estadistica y cuentas nacionales	"	'83.9/8 - '83.10/22
3	MR.BASILIO NIKIPHOROFF	Technical Adrisor Technical cabinet Ministry of Agriculture	"	'83.9/8 - '83.10/22
4	MS.ADELA DE DUBINI	Senior Project Specialist Oficina Nacional de Proyectos Secretaria Tecnica de Planificacion	"	'78.5/25-'78.7/4
5	MR.NIGUEL ANTONIO LOPEZ	Chief Technical Cabinet Ministry of Agriculture	所長, アスンシオン市卸売市場	'77.5/12-'77.6/17
6	MR.ARESENIO RAMON NIRO	Head Regional Development Office Ministry of Industry and Trade	同 左	'76.6/3 - '76.7/13
7	MR.HELIODORU MELCAREJO IDOYAGA	Analyst. General Programator & Budget Ministry of Finance	不 明	'75.4/10-'75.5/20
8	MR.JOSE DE JESUS RIOS TORRES	Programmer, Planning Technical Secretariat for Economic Department	同 左	'74.5/1 - '74.6/22
9	MR.CORONEL CARLOS ALBERTO	Coordinator Project Division Planning Technical Secretariat	部長, 石油公団	'70.2/ - '70.3/
10	MR.EMILIO RAMIREZ	Industrial Program Officer Technical Secretariat of Planning	教授, アスンシオン大学経済学部	'68.4/9 - '68.6/8
11	MR.FERNANDO-JOSE AYALA	Director, Public Adon.School	牧畜基金総裁 アスンシオン大学経済学部長	'67.1/11-'67.3/10
12	MR.EPIFANIO SALCEDO	Generalist	技術官房局長 商工省	'67.1/11-'67.3/10
13	MR.DONATO RENMA	Head, Foreign Trade Division	商工省退官	'85.9/27-'65.11/17
14	MR.ALVERTO TOMAS RAMIREZ-PATINO	Head, Investment Project Div.	総支配人 水道公団	'85.1/9 - '65.3/8

○ : 質問状回収

✓ : 面談者

(2) 現況及び研修の評価

パラグアイから過去14名の参加者があり, うち13名の動向が判明した。

面談及び質問書の回答より8名の所掌業務としては, 経済計画, 地域計画, 工業政策等の立案・実施, 経済分析, 貿易政策・実務業務, 金融政策, 市場流通機構改善業務, 公共事業政策・運営等であり研修成果を応用できる立場にいて, 特に面談者全員がセミナー参加を高く評価していた。

3) ブラジル

(1) 所属機関, ポスト等

No	氏名	研修当時の勤務先	現在の勤務先	研修参加時期
①	MR.ERNANI TEIXEIRA TORRES FILHO	Mnager, Health and Education Dept., Banco Nacional de Desenvolvimento Economico e Social-BNDES	同 左	'84.5/17-'84.6/28
②	MR. RONALDO CAMPOS CARNEIRO	Technical Advisor-Public Companies Control Secretariat, Secretaria de Planejamento de Presidencia de Republica	顧問 企画省経済技術協力課	'84.5/17-'84.6/28
③	MS. MIRIAN KHOURY	Economist of The Plan and Program Planning Area Development Bank of Minas Gerais	同 左	'83.9/3 -'83.10/22
④	MS. EMILIA TICAMI	Technical Assistant Planning and Evaluation Secretary of Economy and Planning	同 左	'82.9/3 -'82.10/23
⑤	MR. VICENTE DE PAULO BARRETO	Supervisor Special Studies Group Secretary of Economy and Planning	無 職	'80.5/22-'80.6/27
⑥	MR. VITOR FERNANDO	Economic adviser of Mayor Mayoralty of Porto Alegre	技師 科学技術基金企画部	'79.9/13-'79.10/23
⑦	MR. HERMINIO LIMA LUNARDI	Barco Sul Brasileiro s/a	不 明	'78.5/25-'78.7/4
⑧	MR. LEDOEGAR JOST	Under Secretary Planning Secretarist of State of Rio Grande do Sou	財務部長 南大河州立貯蓄銀行	'76.6/3 -'76.7/13
⑨	MR. SERGIO LUIZ BRAZINO FERREIRA DA SILVA	Head of Agricultural Plans and Projects Sector, Palnds & Programs Division. CODEVASF	企画部長 サンフランシスコ河川流域開発公社	'75.4/10-'75.5/20
⑩	MR. ANTONIO CARLOS COITINHO FRAQUELLI	Asst. Prof. Santa Maria Univ. & Tech. Director Economic & Statistics Foundation	同 左	'74.5/1 -'74.6/22
⑪	MR. DARLAM CONTE	Director of Area of Industrial Operations, Banco Regional de Desenvolvimento do Eratreimo Sul.	プロジェクト監督担当 IOCHPE DE PARTICIPAÇÃO 幹	'74.5/1 -'74.6/22
⑫	MR. LUIZ INACIO FRANCE DE MODCIROS	Special Adviser to the Governor, Government of the State of Rio Grande do Sul	不 明	'73.4/8 -'73.5/19
⑬	MR. CYRO OKAMOTO (unknown)	Officer, Dept. of Agriculture Govt. of Sao Paulo State	"	'73.4/8 -'73.5/19
⑭	MR. CORALIO BRAGANCA PARDO CABEDA	Economist of Industrial Operations Area, Banco Regional de Desenvolvimento do Extremo Sul (BRDE)	同 左	'72.4/12-'72.5/21
⑮	MR. PAULO T. LUCHAINGER	Director del Gabinete de Presupuesto Y Finanzas de la Secreataria de Hacienda de Estado de Rio-Gande de Sul	不 明	'61.7/12-'61.8/31
⑯	MR. ORESTEO CONCALVES	Jefe de Gabinete de Estudios Economicos Y Financiacion de San Paulo	"	'61.7/13-'61.8/31
⑰	MR. JOSE SYLVIO DOS SAUTOS	Ingeneiro Asistente Y Estimacion de Material & Vsan de Ishikawajima Do Brasil Estaleiroo S/A	"	'61.7/13-'61.8/31

○ : 質問状回収

✓ : 面談者

(2) 現況及び研修の評価

ブラジルからの参加者は17名であるが、今回の調査でそのうち11名の動向が判明した。上記判明者のうち7名については、職位の変更はあるものの所属先は変わっていない。

主に彼らの所掌業務は経済協力業務、河川流域開発プロジェクトの計画・立案・実施・評価・分析、都市開発等の立案、予算分配、金融管理業務、工業・民間企業への信用取引業務、天然資源経済研究等でありセミナーでの知識等を広く応用・活用できる職場におり面談者全員がセミナー参加の有意義性を一様に強調していた。

2 帰国研修員に対する調査結果について

1) 質問書の集計・分析結果

質問書は、予め帰国研修員に送付し、巡回指導中に回収に努め、ペルーでは16名中5名を、パラグアイでは14名中5名を、ブラジルにおいては17名中10名をそれぞれ回収できた。これら質問書の項目別集計結果は次の通りである。

(1) 帰国研修員による研修科目別にみた仕事への有用・活用性について

研修科目	*A	B	C
① 世界における日本経済の役割	7	6	5
② 経済計画	9	6	3
③ 工業政策	5	8	6
④ 工業開発	7	9	3
5 人材開発	5	6	7
6 地域農業開発	5	5	8
⑦ 我が国の経済開発過程	8	7	3
8 金融政策	4	8	7
9 技術開発政策	6	6	6
⑩ 地域開発政策	8	7	4
11 経済開発及び環境保全	4	5	9
⑫ 我が国の経済協力	5	11	4
13 経済協力に対する貿易・投資	4	8	6
14 海外経済協力基金と役割	4	8	7
15 技術協力とJICA	6	6	6
16 北海道地域の開発概要	2	7	7
⑬ 研修旅行	11	3	3

注) *A : 大変有用・活用できる
B : 有用・活用できる
C : 有用・活用性なし

科目別による評価を集計すると、特に、①世界における日本経済の役割、②経済計画、③工業政策、④工業開発、⑦我が国の経済開発過程、⑩地域開発政策、⑫我が国の経済協力、⑬研修旅行については極めて有用・活用性が大であるとしている。

(2) 研修員本人に対する具体的な有益性

1	仕事環境	※ 8
2	責 任	8
3	将来の展望	12
4	給与アップ	4
5	転 職	6
6	仕事の充実	4
7	専門家としての認識	12
8	国際関係	7

* 複数回答

セミナー参加を機会に、仕事環境、責任感、将来の展望、専門家としての認識及び国際関係について個人的影響を強くおよぼしている。

(3) 研修に対するコメント

① 研修期間

○長過ぎる	0
○適当	12
○短か過ぎる	6
○内容によりけり	2

② プログラム

○非常によく練られている	4
○良かった	3
○特になし	13

③ 講 義

○第三国での仕事に従事した人を講師に希望	1
○講師との質疑応答・ケーススタディの時間を多くする	1
○第三国問題の解決を強調すべきだ	1
○特になし	17

④ 手 法

○もっと実践的手法（討論・ケーススタディ等）を活用すべきだ	2
○特になし	18

⑤ テキスト

○テキストを事前に配布してもらいたい	5
○日本の経験的開発論を取扱っている文献書籍を多く配布してもらいたい	1
○最新の文献書籍の活用	1
○特になし	13

⑥ 研修旅行

○現状のアレンジで充分である	1
○工業生産工程の視察を	1
○経済計画担当省庁の見学，実務担当者との懇談の機会を	1
○もっと余裕のあるスケジュールを組んでももらいたい	1
○旅行期間を長くしてもらいたい	2
○特になし	14

(4) 研修に対する時間配分

① 講 義

○少ない	1
○適当	14
○多すぎる	5

② 討 論

○少ない	5
○適当	14
○多すぎる	—

③ 演習・ケーススタディ

○ 少ない	5
○ 適当	15
○ 多すぎる	—

④ 視 察

○ 少ない	5
○ 適当	14
○ 多すぎる	1

⑤ 研修密度

○ ゆったりしている	1
○ 適当	17
○ ハードである	2

研修に対する時間配分からみると、討論、演習・ケーススタディ及び視察については、今後、時間の配分を充分考慮する必要があるだろう。

2) 帰国研修員による研修内容に対する要望及び改善点

面談及び質問書の回答を通じて、次の通り要望・改善点の指摘がなされた。

(1) 研修期間

- 現状の研修期間は短く、タイトすぎるので最低2ヶ月の期間で余裕のあるプログラムにしてもらいたい。

(2) 研修プログラム

- 研修内容(分野)にダブリがあった。
- 研修内容の焦点を絞るべきであり、特に、日本の海外投資、開発に対する科学の役割等に重点を置いたらどうか。
- 講師との質疑応答、ケーススタディ、研修旅行については時間を多くもうけてもらいたい。
- カントリー・レポートについては、トピックを限定し参加者の間で効果的、実りある討論ができるようにしてもらいたい。
- 来日前にセミナー内容の詳細を通知してもらいたい。
- 次の通り科目の追加要望があった。

- ・ 日本的企業管理, 国際関係
- ・ 農産物の生産・流通・加工をモデルにした経済のしくみ
- ・ 経済分析演習
- ・ 農業経済政策
- ・ 政府主導型の中小企業事業
- ・ 第三世界の問題解決
- ・ 日本経済の市場構造
- ・ 経団連, 大学の訪問
- ・ 労働組合のリーダーとの意見交換

(3) 実施方法

- 講義の理解を深めるため, セミナー用のテキストを前もって配布してもらいたい。
- 経済開発上の共通点, 問題点の類似した地域別のグループわけした研修を考慮してもらいたい。一方, グループわけについては, 参加国の国が多様であり参加国の経済状況, 研修員のレベルに相違があるのであえてグループわけの必要性もなく経済開発上の基礎的なものをじっくり勉強させてもらえればよいとの意見もあった。
- 講師陣として, 特に, 第三国で仕事に携わった発展途上国の任国経済事情に明るい人の参加を考慮してもらいたい。

(4) 研修員の資格条件

- 地域/国土開発計画の策定, 評価に3年以上従事した者を対象とすべきである。
- 経済の知識がないものが参加しており研修員間のレベルに問題があったと思う。又, 英語力を充分有することがつっこんだ議論を進める上で最低不可欠なものと考えるので資格条件にあった研修員を厳選すべきである。

(5) その他

- 帰国研修員に対して, 本件セミナー運営の一環として情報交換システムを確立し, 当該分野に係る種々の情報交換ができるようにしてもらいたい。
- 当該分野に係る文献・資料等が欲しいので可能な限り送ってもらいたい。
- 宿泊施設として, JICAの国際研修センターを利用させてもらいたい。
- 帰国研修員を対象としたフォローアップコースの実施を検討してもらいたい。

3 研修員候補者の選定について

1) ペルー

日本から送付された「募集要綱(通称G-I)」は, 在ペルー日本大使館より外務省を経て大統領府所轄国立奨学センターへ回される。

同センターは, G-Iを基に公募を行い, 候補者より提出された関係書類等をもとに, ペルー

一政府の方針に沿った優先順位付を行い外務省へ結果を報告する。

一方、日本大使館よりG.Iのコピーを直接同センター、科学技術審議会へ、JICAペル
一事務所より関係官庁技術協力部へそれぞれ送付し、相応しい機関からの候補者の推せんが
なされるよう側面的にフォローしている。

2) パラグアイ

在パラグアイJICA事務所よりG.Iは、大統領府企画庁へ回される一方、関係省庁技術
部及び派遣専門家所属機関へも送付される。

企画庁は関係省庁より候補者の推せんがあったものをJICA事務所と協議の上、候補者
を人選し、正式要請書をもってJICA事務所へ推せんするシステムになっている。

しかし、実際には企画庁の調整能力、人選能力は非常に弱く、JICA事務所の助言が大
きく影響している。

3) ブラジル

在ブラジル日本大使館よりG.Iは、外務省技術協力課を通じ企画庁国際経済技術協力局
(SUBIN)へ回される。SUBINは、G.Iを関係機関に送付し、候補者より提出された
関係書類をもとに、ブラジル政府の方針に沿った優先順位付を行い外務省技術協力課へ結果
を報告する。SUBINでの優先順位付は、所属先、地域、職業、経験、語学力等によりあ
らかじめ設定された点数をもとに各人に総合点をつけており、多数の候補者がある場合、右
総合点の高い順に優先順位を付している由。

4 研修コースの問題点及び改善への提言について

本セミナーは、我が国の経済発展の経験を発展途上国に伝えるという理念のもとに研修内容
が組まれている。すなわち、我が国が明治以降急速に西欧諸国との経済社会の発展段階の格差
を縮め、ついに自由世界GNP第2位の経済大国に至った過程が、現在の途上国にとって大
いに関心が注がれていることによる。

今回のフォローアップ実施による見聞及び帰国研修員等との意見交換を通じ、南米諸国は中
進国として気位い、自負心を持つものの対外累積債務にあえぎ、複雑な経済情勢に直面してお
り、他の発展途上国とは異なった様相を呈していること、又、本セミナーは研修員参加資格
条件が設けられているにもかかわらず参加国の国情を反映し、人選された研修員の職種が多様
で、かつ、実務経験の面からもバラツキが多い等の原因によりセミナーに期待する内容も多様
化していること、等の実情を踏え次の通り本セミナー実施上の改善点を提言したい。

1) G.Iの早期送付及びカントリー・レポートの要請書との同時提出

従来の業務の流れではG.I送付4月、要請書締切7月中旬、候補者への受入通知8月中旬
を目途として実施されているが、本人が受入通知を受領してから渡日まで十分な時間がなく
出発前の仕事の整理に忙殺され満足されるカントリー・レポートの作成がなされていない実

情であり研修の上でも十分な成果が望めない一因になっている。かかる状況に鑑みカントリー・レポート（タイプ打のみ可）を要請書と同時に提出せしめることとし、G.I送付時期については参加国の候補者の適任選考手続及び候補者のカントリー・レポート作成に時間的余裕をもたせるため、従来より2ヶ月程業務の流れを早め、G.I送付2月、要請書及びカントリー・レポート提出締切7月中旬、候補者への受入通知8月初旬とすることを検討してみたいかがであろうか。

2) 応募者の語学力、セミナー参加に対する意欲度のチェック

セミナーを通じ突っ込んだ議論を進めていく上で英語力は不可欠なものである。ついては、候補者の要請書が在外公館/JICA事務所へ提出される際、候補者と面談して十分な英語力及び基礎的経済知識を有しているかのチェック並びに候補者が本件研修で何を学ぼうとしているか、何を期待しているかについても聴取、そのコメントを付して要請書・カントリー・レポートを本邦へ送付してもらう様にしたらどうか。

3) カントリー・レポートの活用

上記1)で提案の要請書との同時提出のカントリー・レポートの内容については、候補者選考に際して要請書内容と同様に受入可否決定の重要なファクターとしてはいかがか。又、提出されたカントリー・レポートは全員分を一冊の本として製本の上、セミナー担当講師に対し事前に配布することにより、研修員が直面している開発計画上の諸問題の把握並びに参加国の経済開発についての実際上の諸問題を理解する参考資料として活用してはどうか。

4) 研修員の要望に沿った研修内容のアレンジ

現在実施している本セミナーの内容は、日本の経済発展の経験を多面的に紹介しているが研修員の中には自国の経済開発・政策に対する直接的な助言、ヒントを得たいと思っている者も多い。そこで、本セミナーを集団研修と地域別研修の二部構成とし集団研修では研集員全員を対象に現在実施している講義を行い、地域別研修では研修員の要望に出来るだけ対応できるような講義を考え質疑応答の時間を十分とるようにする。又、選択のできる研修旅行等のプログラムを考慮するようにしたらどうか。

5) 講義用教材・資料等の事前の十分なる準備及び研修員への事前配布

セミナーで使用する教材・資料等は全て一括して一冊のテキストとして製本し事前に研修員に配布し、十分に予習の時間をもうけて講義は質疑応答、討論中心方式の導入を検討してみたいかどうか。

6) 帰国研修員のフォローアップ事業

帰国研修員より当該分野についての入手したい資料・文献及び情報交換等の要望がある場合、現地JICA事務所を窓口としてこれら要望調査を実施し本部担当部署を通じ関係省庁とも密に連絡をとりつつ、必要に応じ長期に亘り資料提供、情報交換ができる様なシステムの確立に努めるべきであろう。

III 公開セミナーの実施

1 国別実施状況

1) ペルー

① 開催日時、会場及び出席者数

日 時：8月8日(金) 午前10:00～12:00

場 所：日秘文化会館

出席者数：13名(帰国研修員及び関係機関の職員等)

② テーマ：我が国経済計画の変遷

：我が国経済の当面の課題

③ 主な質問事項

- 日本の援助、特に第三次中期目標(7年倍增計画)でのラテンアメリカの割合。
- 技術移転(発展途上国にとって有益な中間技術の移転 = サービスの輸出)の増大。
- 日本の輸入の拡大、市場開放。
- 金属分野への投資は考えているか。
- 関税等についての問合せ先
日本の政策の中で輸入を拡大する、そのために関税を下げるとなりましたが、その対象は高度の技術を用いた商品に限られているようです。ペルーは高度の技術を用いたものは輸出していません。どういう方法によって関税引下げの対象になるのか。
- 日本の品質規格はむづかしく、めんどろ。緩和できないか。
- アクションプログラムを作成する機関はどこか。
- 輸入品のうち、砒素等の含有商品の輸入を認めているか。
- 日本の財政赤字の内容。
- 公社から民間移行の理由、ペルーでは逆の現象がみられるがどちらがいいのか。
- 日本の1986年の経済成長率は石油価格が好転すればどうなるか。

2) ブラダアイ

① 開催日時、会場及び出席者数

日 時：8月12日(火) 午後5:00～6:30

場 所：芭日協会

出席者数：17名(帰国研修員及び関係機関の職員等)

② テーマ：上記と同じ

③ 主な質問事項

- 電々公社、専売公社等、民間に移行した方が効率が良くなるのか。
- 国鉄民営化による失業対策。

- 日本の経済計画は見直しをやっているのか。
- 計画の目標（数字）は実際に達成できているか。
- 国鉄民営化による失業対策の一つとして友好国に対して移住について考えているか。
- 経済計画の公共部門の数字は政府の活動を拘束するか。
- 農業部門についての開放を考えているか。
- 技術開発計画は政府でやるのか、民間でやるのか。
- どういう技術開発に力を入れているのか。

3) ブラジル

① 開催日時，会場及び出席者数

日 時：8月20日（水）午後2：00～4：00

場 所：ホテル・プラザ会議室

出席者数：15名（帰国研修員及び関係機関の職員等）

② テーマ：上記に同じ

③ 主な質問事項

- 日本とブラジル経済の関係，特に対ブラジル投資の現状。
- ブラジルは債務の返済に苦しんでいるが，日本は円借款を投資と考えたことはないか。
- 日本の経済計画の数字をみると矛盾しているような気がするが整合性をとっているのか。
- 計画中，インフレを3%におさえる，国内消費を高める，とあるが国内消費を高めるとインフレは高くなるのではないか。
- 輸入を増やし，国内消費を増やす考えのようだが，貯蓄高は減っていくのではないか。
- 財政赤字はどのような形でファイナンスしているのか。
- 日本の経済計画における国と地方の役割分担（施行，実行，資金の調達等）。
- 国際収支の黒字解消に国内市場の開放を考えているとのことだが，ブラジル製品についてはどのようなものを考えているか。
- 食糧については，国内食糧の3分の1を輸入しているとのことだがその割合は増やす傾向にあるのか，又は国内生産を増やしていくのか。
- 日本が国際協力を推進するためには，世界の既存の機関を使って行うのか，日本独自で行うのか。
- 貿易黒字と円高の関係。
- 財政赤字解消のために国民はどう寄与するのか。

2 セミナー講演内容

我が国の経済計画について

1 計画の基本的役割

我が国の経済計画は、計画経済体制下の経済計画とは異なり、市場経済を前提とした計画である。従って、公的部門は、それを中長期的な政策運営の指針とし、その着実な実施に当たることとなるものの、民間部門については、その活動のガイドラインとして参考とされるものである。

こうした我が国経済計画の基本的役割は、

- ① 望ましく、かつ、実現可能な経済社会の姿についての展望を示し、
- ② その実現を目指して中長期にわたって政府が行うべき経済運営の基本方向を定めるとともに、重点となる政策目標と政策手段を明らかにして、
- ③ 家計や企業の活動のガイドラインにしようとするものである。

なお、計画策定の過程において、国民各層の利害調整が図られることや、計画を作成することによって対外的に我が国の中長期的な経済運営を明らかにするという役割も担うものである。

2 各種計画等との関係

我が国の経済計画は、国民経済の全体像を整合的に描いた中長期のマクロ経済運営に関する基本計画である。経済計画に示されている政策の方向付けや政策目標は、各省庁における施策の立案・実施に当たっての指針となっており、また、各省庁が所管の計画等を立案する際、経済企画庁は、経済計画との整合性を確保する観点から総合調整を行っている。

この調整は、①各種計画が閣議決定の手続きをとる、②各種計画の根拠法に基づき関係行政機関の長との協議が行われる、③各種計画を策定する審議会に關係省庁の職員が幹事等の形で参画する、というような形で行われ、これら各種計画に経済計画の趣旨が反映されることとなる。

(1) 各種公共事業長期計画

閣議決定に係る公共事業長期計画として、現在15の計画が存在している。これらの過半は法律に根拠を有しているものであり、それぞれの所管省庁で作成されている。

公共事業長期計画では、経済計画で示す望ましい経済社会を実現していくための基本方向に基づき、それぞれの分野別に必要となる社会資本への投資額が示される。このため、各種公共事業長期計画を定める際には、経済計画で示された方向と一致するよう経済企画庁との間で調整が図られる。

(2) 全国総合開発計画

全国総合開発計画は、国土総合開発法に基づき作成されるものである。

これまで、全国総合開発計画の策定に当たっては、将来予測等を行う場合に経済計画にお

ける経済フレームが参考にされたほか、地域政策や社会資本の充実等の経済計画で示されている政策の基本方向を踏まえて作成されている。

(3) 雇用対策基本計画

雇用対策基本計画は、雇用対策法に基づき作成されるものであるが、計画の対象期間は経済計画と一致したものとなっており、計画の目標（失業率の目標等）も、経済計画で示した数値に基づいて決められている。内容についても経済計画で定めた基本方向をより具体化する形で作成されており、計画の骨格となる基本部分は経済計画と一致している。

このため、雇用対策基本計画を審議する雇用審議会は、経済計画策定作業に合わせて開催されてきており、また、その事務局となる労働省と経済企画庁との間では十分な調整が行われている。

(4) 各分野の実行計画

所管分野の政策を推進していくに際して、各省庁は様々な計画や展望を作成しているが、これらの計画等の前提となる将来の展望や政策の基本方向については、経済計画で示された内容が踏まえらる。

例えば、長期エネルギー需給見通しや電源開発基本計画等の策定に当たって、その需要予測を行う際には、経済計画における経済成長率等を参考に推計が行われる。環境保全長期計画等においても、経済計画で示す政策の基本方向を踏まえて作成される。

(5) 経済見通しと経済運営の基本的態度

政府経済見通しと経済運営の基本的態度は、今後1年間の経済予測と経済運営の指針を示すものである。その内容は、経済計画で示される中長期的展望と政策の基本方向を踏まえつつ、短期的な景気動向とそれに伴う諸課題を配慮して作成され、翌年度の予算編成の基礎ともなるものである。このため、これは経済計画と実際の政策運営を連結する役割をも果たすといえる。

(6) 財政の中期展望

財政の中期展望は、国の一般会計について、財政の現状を一定の仮定の下に将来に投影することにより、中期的な財政の姿を試算するものであり、中長期的視点に立った財政運営を進めていく上での検討の手掛りを示すもので、将来の予算編成を拘束するものではない。

その試算に当たっては、経済計画で示された成長率等の指標が参考として用いられている。

3 計画の策定手続き及び組織

経済計画を作成するための我が国の機関としては、行政レベルでは経済企画庁が、また、各界の意見を集約する場としては経済審議会がある。

新しい経済計画の策定を求める旨、内閣総理大臣から経済審議会に対して諮問がなされると、経済審議会は、経済企画庁の協力の下に計画策定作業を進める。経済計画の成案は、内閣総理大臣に答申された後、閣議決定され、政府の経済計画となる。

経済審議会は、学界、財界、労働界、官界OB、言論界等の学識経験者によって構成される内閣総理大臣の諮問機関であり、「長期経済計画の策定に関する事項」の調査審議を主たる任務としている。同審議会は、現在、委員26人で組織されているが、計画策定時には200~300人程度の臨時委員が任命され、全体を統括する委員会と主要事項ごとに分科会、小委員会、研究会等が設けられる。分科会、小委員会、研究会等は、それぞれの分野別に問題点及び政策の整理と具体的な政策提言を行い、全体を統括する委員会がそれらの総合調整や計画の重点、マクロ経済の展望の検討を行う。

事務局である経済企画庁は、各部会における実務的作業を担当するとともに、審議会委員間の意見調整に努める他、計画を真に実効あるものとするため、関係各省庁等との調整を行い、関係各方面の合意形成に努める。

4 計画の歴史と内容の変遷

我が国において、経済計画が政府の計画として閣議で決定され、公表されるようになったのは、「経済自立5ヶ年計画」が最初であった。その後、昭和58年8月の「1980年代経済社会の展望と指針」に至るまで、10の経済計画が公式に決定されている。それらの対象期間は、おおむね5年であったが、国民所得倍増計画については10年であった。

これらの計画は、我が国経済の発展段階、直面する経済的・社会的課題等に応じてその内容に変化がみられ、大まかにとらえると次の4つの時期に分けられる。

第1は、戦後まもなくから1950年代半にかけての時期である。

この間、数々の物資動員計画が作成され、先ず、生活の戦前水準への復帰、経済の正常化の道が模索されたが、次第に、輸出の振興、自給度の向上、資本蓄積の推進等による自律的な経済発展のメカニズムを形成し、外国援助に頼らない経済的自立を達成することに重点が移っていった。

第2は、1950年代半から60年代後半にかけての時期である。

我が国経済が戦前水準への回復を完了した1950年代後半に入ると、計画も成長に重点を置いた内容へと変化をみせた。こうした経済計画の下で、実態経済は計画の想定をはるかに超える高成長を続ける一方、1960年代に入ると、社会資本と民間資本のアンバランス、消費者物価の上昇、地域間格差等いわゆる経済成長の「呑み」といわれる現象も表面化してきた。このため、1960年代前半の計画では、「呑み」の是正、特に社会資本、社会保障の立遅れの是正を前面に掲げつつ、国際収支と物価の制約要因が許容する極大成長を目指すようになった。

第3は、1960年代後半から第1次石油危機までの時期である。

1960年代の後半になると、福祉の立遅れ、過密・過疎問題、公害問題等が一層深刻化したことを反映し、計画も経済的側面のみならず社会的側面も重視する方向へと転換し、初めて「社会」という言葉が計画に導入されるようになった。また、GNP規模が自由世界第2位と

なる(1968年)など、我が国経済の規模拡大に伴い、国際協調の理念が盛り込まれ国際面にも重点がおかれるようになった。

第4は、第1次石油危機以降の時期である。

石油危機を契機に、諸外国同様、我が国の高度成長は大きな転換を余儀なくされた。狂乱物価、激しい不況、国際収支難といったトリレンマから我が国経済を脱出させ、新たな安定成長路線へ円滑に移行させることが最大の課題となり、これ以降策定された2つの計画(昭和50年代前期経済計画及び新経済社会7ヶ年計画)は、こうした課題に対応するためのプログラムであった。

5 「展望と指針」の考え方

こうした変遷を経て現在の「展望と指針」に至っているが、これは従来の計画とはやや異なる次のような特徴を有している。

- ① 今後の我が国経済社会の基本的な展望や政策運営の大まかな方向など定性的な面を重視している。
- ② 経済の数値的展望については、成長、物価、雇用についての大きな数値を示すにとどめている。
- ③ 計画を事態の変化に柔軟に対応させ時代の要請に合致したものとしていくため、昭和65年度を最終年度とするローリング・プラン的な考え方(リボルビング・プラン)に沿って、毎年、経済社会の展望と政策運営の指針について見直しを行い、計画の内容をより具体化していくこととしている。

こうした方式をとるに至った基本的認識としては、

第1に、我が国経済社会が欧米先進諸国へのキャッチ・アップを完了した現在、発想を転換し時代に合わなくなった制度を厳しく見直し、長期的視点に立って、来たるべき時代にふさわしいものに作りかえていくことが必要であること。

第2に、こうした構造改革が実施に移されることに伴い、1980年代の我が国経済社会は、未だに経験したことのない厳しい変革と変化を伴うであろうこと等があげられる。

このように、「展望と指針」は、経済社会の各面において構造改革が求められている変化の厳しい時代への対応を図るべく計画手法の工夫を図っている。

(参考資料)

1. 日本の経済計画一覽 その1

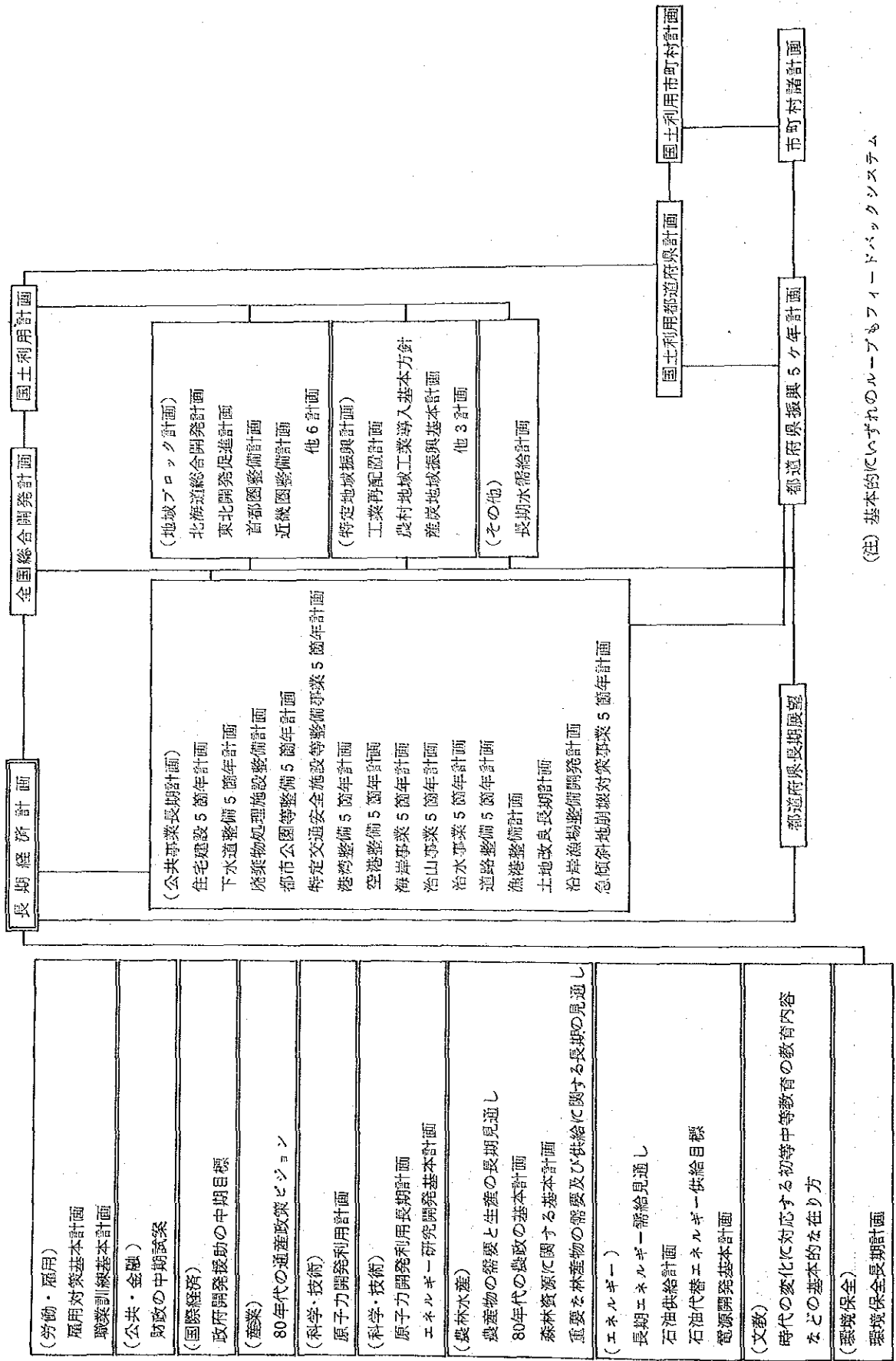
計画の名称	経済復興計画 第一次試案	経済自立 5カ年計画	第5期 経済計画	國民所得 格別計画	中期経済計画	経済社会 発展計画	新経済社会 発展計画	経済社会 基本計画	昭和50年代 前期経済計画	新経済社会 7カ年計画	1980年代 展望と指針 会の展望と指針
策定年月	1948年5月 経済復興計画委 員会に提出	1955年12月 閣内 1955.7 閣内 1955.12 閣内	1957年12月 1957.8 閣内 1957.11 閣内	1960年12月 1959.11 閣内 1960.11 閣内	1965年1月 1961.1 閣内 1964.11 閣内	1967年3月 1966.5 閣内 1967.2 閣内	1970年5月 1969.9 閣内 1970.4 閣内	1973年2月 1972.8 閣内 1973.2 閣内	1976年5月 1975.7 閣内 1976.5 閣内	1979年8月 1978.9 閣内 1979.8 閣内	1983年8月 1982.7 閣内 1983.8 閣内
策定時内閣	芦田内閣	鳩山内閣	岸内閣	池田内閣	佐藤内閣	佐藤内閣	佐藤内閣	田中内閣	三木内閣	大平内閣	中曽根内閣
計画期間 (年度)	1948~1952 (5カ年)	1956~1960 (5カ年)	1958~1962 (5カ年)	1961~1970 (10カ年)	1964~1968 (5カ年)	1967~1971 (5カ年)	1970~1975 (6カ年)	1973~1977 (5カ年)	1976~1980 (5カ年)	1979~1985 (7カ年)	1983~1990 (8カ年)
計画の目的	生活水準の回復 完全雇用	経済の自立 完全雇用	極大成長 生活水準向上 完全雇用	向上	ひずみ是正	均衡がとれた充實 した経済社会へ の発展	均衡がとれた充實 な経済社会へ の発展	國民福祉の充實 と國民意識の推 進の同時達成	我が國経済の安 定的発展と充實 した國民生活の 実現	安定した成長軌 道への移行 國民生活の質的 充實 國際経済社会発 展への貢献	平和で安定的な 國際関係の形成 活力ある経済社 会の形成 安心で豊かな國 民生活の形成
實質経済成長 率 (計画) (実績)	(実績國民所得) (1930~34=100) 1952=121 (同上1人当り) 1952=97	5.0% (8.7%)	6.5% (9.9%)	7.2% (10.7%)	8.1% (10.6%)	8.2% (10.9%) 9.9%	10.6% (6.1%) 5.3%	9.4% (4.1%) 3.8%	6%強 5.1%	5.7%前後 (79~83年度) 4.1%	4%程度
完全失業率 (計画) (実績)		6.0年度1.5%	6.2年度1.3%	7.0年度1.2%	6.8年度1.1%	7.1年度1.3%	7.5年度1.9%	7.7年度2.1%	8.0年度1.3%台 8.0年度2.1%	8.5年度 1.7%程度以下 8.3年度2.7%	6.0年度 2%程度
消費者物価上 昇率 (計画) (実績)	實質1人当り個人 消費支出 (1930~34=100) 1952=90	2.0%	3.5%	5.7%	2.5%程度 5.0%	3%程度 5.7%	年平均4.4% 計画期間未 了3%台 1.0.9%	年平均4% 1.2.0%	年平均6% 計画最終年度ま で6%以下 6.4%	年平均5%程度 7.9~8.3年度 4.2%	年平均3%程度
目標年度にお ける國際収支 (經常)差 (計画) (実績)	1千万ドル	0億ドル △0.1億ドル	1.5億ドル △0.2億ドル	1.8億ドル 1.4.7億ドル	0億ドル 1.4.7億ドル	1.4.5億ドル 6.3.2億ドル	3.5億ドル 1.3億ドル	5.9億ドル 1.4.0.0億ドル	4.0億ドル程度 △7.0.1億ドル	國際的に調和の とれた水準	國際的に調和の とれた対外均衡 の達成

(注) 實質経済成長率は1975暦年基準新SNAベースによる。(但し、()内は1970暦年基準日SNAベースによるもの)

日本の経済計画一覽 その2 (目標と政策課題)

<p>経済自立 5カ年計画</p> <p>(目標)</p> <p>安定経済を基調として経済の自立と完全雇用の達成を図る。</p> <p>(課題)</p> <p>①産業基盤の強化 ②貿易の振興 ③国内自給度の向上と外貨負担の軽減 ④国土開発の促進 ⑤科学技術の振興 ⑥中小企業の育成 ⑦雇用の増大及び社会保障の充実 ⑧健全財政の堅持と金融の正常化 ⑨物価の安定 ⑩国民生活の安定と消費の節約</p>	<p>新長計計画</p> <p>(主要目的)</p> <p>経済の安定を維持しつつ、できるだけ高い経済成長率を保持的に達成することによって国民生活水準の滑らかな向上をはかりつつ、完全雇用の状態に接近する。</p> <p>(課題)</p> <p>①輸出の拡大 ②資本蓄積の増強 ③経済発展の基礎部門の充実 ④産業構造の高度化 ⑤農業生産構造の近代化 ⑥雇用と国民生活の改善</p>	<p>中期経済計画</p> <p>(目的)</p> <p>ひずみの是正即ち生産面・生活面の後進的部門を経済社会発展のテンポに同調させ、経済社会の調和ある発展を図る。</p> <p>(課題)</p> <p>①社会開発を推進する ②貿易の振興と産業構造の高度化 ③人的能力の向上と科学技術の振興 ④人的能力の向上と科学技術の振興 ⑤二重構造の緩和と社会的安定の確保</p>	<p>経済社会 発展計画</p> <p>(目的)</p> <p>変貌する国際社会のなかにおいて日本の経済的地位を確立し、国民がそれによつて充実した生活を享受するための基盤条件をつくりあげ、均衡のとれ充実した経済社会への発展をはかる。(40年代への挑戦)</p> <p>(課題)</p> <p>①物価の安定 ②経済の効率化 ③社会開発の推進 (以上三大重点施策) ④長期的経済成長条件の整備 ⑤社会資本の充実 ⑥公害の排除</p>	<p>新経済社会 発展計画</p> <p>(目的)</p> <p>国際化を積極的に進めるなかで、均衡のとれた経済発展を通じて、国民がそれによつて充実した生活を享受する。</p> <p>人間性豊かな経済社会をめざして</p> <p>(課題)</p> <p>①国際的視点に立つ経済の効率化 ②物価の安定 ③社会開発の推進 ④適正な経済成長の維持と発展基盤の増強</p>	<p>経済社会 基本計画</p> <p>(目的)</p> <p>国民福祉の充実と国際協調の推進の同時達成をはかり、活力ある福祉社会を実現するための長期的プロセスのなかで、昭和48年度から昭和52年度までの最初の5年間に於ける政策運営の基本方針を提示。</p> <p>活力ある福祉社会のため</p> <p>(課題)</p> <p>①豊かな環境の創造 ②ゆとりのある安定した生活の確保 ③物価の安定 ④国際協調の推進</p>	<p>昭和50年代 前期経済計画</p> <p>(目的)</p> <p>流動的な内外情勢の下で、国際経済社会との調和を保ちつつ我が国経済の安定発展と充実した国民生活の表現を図る。</p> <p>(安定した社会を求めて)</p> <p>(政策運営の基本方向)</p> <p>①需給バランスの回復 ②安定成長路線の定着 ③物価の安定と完全雇用の確保 ④国民生活の安定と充実に資する環境の形成 ⑤世界経済発展への協調と貢献 ⑥経済的安定の確保と長期発展基盤の増強</p>	<p>新経済社会 7カ年計画</p> <p>(目的)</p> <p>我が国経済を新しい安定的な成長軌道に乗せ、質的に充実した国民生活の実現を図るとともに国際経済社会の発展に積極的に貢献する。</p> <p>(経済運営の基本方向)</p> <p>①経済部門の不均衡の是正 ②産業構造の転換とエネルギー制約の克服 ③新しい日本型福祉社会の構築 ④完全雇用の達成と物価の安定 ⑤国民生活の安定と充実に資する環境の形成 ⑥国際経済社会発展への協調と貢献 ⑦経済的安定の確保と発展基盤の増強 ⑧財政の再建と金融の新しい対応</p>	<p>1980年代 経済社会の展望と指針</p> <p>(目的)</p> <p>平和で安定的な国際関係の下に、活力ある経済社会と安心で豊かな国民生活を形成する。</p> <p>(創造的安定) (社会の構築)</p> <p>(政策の重点)</p> <p>①行政の改革と財政の改革 ②産業構造の高度化 ③民間活力の活用 ④国際協力の推進 (課題)</p> <p>①完全雇用の達成と物価の安定 ②行政の改革と財政の改革、金融の対応 ③国際経済社会発展への貢献 ④活力ある経済社会の建設 ⑤国民生活の安定と向上</p>
--	---	--	--	--	--	--	--	---

2. 各種計画の関連図



(注) 基本的にいずれのループもフィードバックシステム

3. 日本の経済計画 - 変遷と背景 -

1948	55	57	60	65	67	70	73	76	79	83
計画の区分	経済復興計画 (復興期)	経済自立 5カ年計画 (自立期)	新長期 経済計画	国民所得 倍増計画 (高度成長1期)	中期 経済計画 (高度成長2期)	新経済社会 発展計画	新経済社会 基本計画	昭和50年度 前期経済計画	新経済社会 7カ年計画	展望と 指針
対外関係 の環境	サンフランシスコ 条約発効 (独立)	GATT 加盟 (貿易自由化へ)	IMFO条約 移行 OECD正式加盟 (先制国化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	米朝-金・ドル 交換停止 (ニクソン・ショック) 仲調機構 第1次石油危機	米朝-金・ドル 1ドル=308円 (サミット) 制移行 (変動相場制、国際化)	イラン革命 (第2次石油危機)		
内外市場 対策	臨時物資需給 安定法発効 (市場経済化)	電源開発促進法 鉄鋼第2次合理化 計画(〜55)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)	貿易・為替自由化 計画大幅決定 (対外自由化)
工業振興	電源開発促進法 鉄鋼第2次合理化 計画(〜55)	鉄鋼第2次合理化 計画(〜60)	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想	新選築都市(大規模鉄鋼新建設) 建設促進法 東横 株 福山 水島 本平法ベネリート 地帯構想
国土開発 社会資本整 備	国土総合 開発法 北上山翠 総合開発 第一次道路 5カ年計画(〜68)	高野橋 名神高速 整備法 道路新工 道路公団法 国鉄第一次 5カ年計画 (電化・複線化)	第一次全国 総合開発計画 (地点開発方式)	第一次全国 総合開発計画 (地点開発方式)	第一次全国 総合開発計画 (地点開発方式)	第二次全国 総合開発計画 (大規模プロ ジェクト方式)	第二次全国 総合開発計画 (大規模プロ ジェクト方式)	第三次全国 総合開発計画 (定住方式)	第三次全国 総合開発計画 (定住方式)	第三次全国 総合開発計画 (定住方式)
生活環境	北海道総合開発 5カ年計画(第1次) (人口収容対策)	所得 償方式 生産者米価決定 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)	国民所得倍増 ・増年金 (所得格差、二重構造)

4. 主要経済指標の推移

	1948	52	55	57	60	65	67	70	73	76	79	83							
	経済復興計画		経済自立 5ヶ年計画		新長期 経済計画		国民所得 倍増計画		中期 経済計画		経済社会 基本計画		昭和50年代 前期経済計画		新経済社会 7ヶ年計画		展望と 指針		
国民総生産 (億ドル)	U.S. 3654 U.K. 476 W.G. 350	190	U.S. 5000 U.K. 712 W.G. 720	431	U.S. 10803 U.K. 1364 W.G. 2180	2298	U.S. 20641 U.K. 5130 W.G. 6831	11427											
1人当り 国民総生産 (ドル)	U.S. 2280 U.K. 926 W.G. 712	218	U.S. 2817 U.K. 1368 W.G. 1300	402	U.S. 5121 U.K. 2454 W.G. 3571	2196	U.S. 12852 U.K. 9103 W.G. 11076	9721											
普及率(千八当り)																			
T V (台)		-		98						U.K. 404 W.G. 337	(U.S. 77,613)	580							
電話 (台)		30		67						U.K. 476 W.G. 433	(U.S. 61,421)	459							
乗用車 (台)		1		6						U.K. 269 W.G. 337	(U.S. 53,290)	262							
生産																			
鉄鉱 (千トン)	U.S. 101250	7662	U.S. 89917	28268	U.S. 8740	12250	U.S. 18490	14578		U.S. 6253	8974								
T V (千台)	U.S. 6770	14	U.S. 0012	4609	U.S. 8626	9718	U.S. 8226	43.2											
乗用車 (千台)	U.S. 6117	9	U.S. 5543	250	U.S. 8226	9718	U.S. 8226	43.2											
道路舗装率 (%)		5.4		11.9															
国内旅客輸送 (億キロ)		1496		2603															
(鉄道の比率%)		(83.6)		(74.0)															
(乗用車の比率%)		(1.6)		(6.0)															
国内貨物輸送 (億トンキロ)		751		1562															
(鉄道の比率%)		(85.5)		(37.4)															
(自動車比率%)		(9.1)		(17.0)															
(内航運の比率%)		(35.4)		(45.5)															
総人口 (万人)	8320	8928	9342	9828	10372	11194 (含沖縄)	11706												
人口減少率 (総人口)		7		26		30		20		3		1 (東京都)							
(総人口)		(46)		(46)		(46)		(46)		(47)		(47)							

(資料) Statistical Yearbook (U.N.), 国際比較統計(日英), 商務調査(統計局)等

5. 「1980年代経済社会の展望と指針」について

1 策定の経緯

昭和54年8月策定された「新経済社会7ヶ年計画」が想定した経済の姿は、第2次石油危機等内外情勢の変化により、現実と手離れたものとなった。一方、21世紀に向かう長期的視点で我が国経済社会を展望すると、国際化、高齢化、成熟化という大きな流れがあり、こうした変化を踏まえて中期的な経済運営に関しても新たな指針が求められ、新計画の策定について昭和57年7月諮問がなされた。新計画は「1980年代経済社会の展望と指針」として、昭和58年度から65年度（1980年代）を対象に、昭和58年8月に閣議決定された。

2 計画の内容

(1) 1980年代の位置付けと変化の方向

1980年代は国際環境、経済、国民生活の各面で多重的変化があるものと考えられ、先進国へのキャッチアップをはたした我が国が、従来型の対応を繰り返す場合には、国際的孤立、経済的パフォーマンスの悪化、生活不安の高まりを招く可能性がある。そのため従来にも増して経済社会の安定を目指す必要があるが、その際、世界経済秩序の再構築、技術革新の推進による知識集約化、「人生80年型」ライフスタイルに対応したシステム作り等各分野で創造的対応が求められる。こうした意味で、1980年代の我が国は「創造的安定社会の構築期」と位置付けられる。

(2) 「展望と指針」の4重点

こうした時代に必要なこととして「展望と指針」にあげられているのは、以下の4点である。

- ① 現下の最大課題である行政の改革、財政の改革を進めること。
- ② 産業構造の高度化に支えられた新しい成長への歩みを進めること。
- ③ 民間活力の役割を重視し、その活用を図ること。
- ④ 国際協力を推進すること。

(3) 4重点を達成し、創造的安定社会を構築するための経済運営の指針

- ① 経済成長率：実質年平均4%程度、名目6～7%程度
- ② 昭和65年度における完全失業率：2%程度
- ③ 消費者物価上昇率：年平均3%程度、卸売物価上昇率：1%程度
- ④ 内需中心の適度な経済成長を通じて国際的に調和のとれた対外均衡の達成に努める。
- ⑤ 行政の役割の見直し、効率化等により、対象期間中に特例公債依存体質からの脱却と公債依存度の引き下げに努める。

(4) なお、事態の変化と要請に柔軟に対応しうるようにするため、毎年リボルビングを行うこととした。

6. 昭和59年度リボルビング報告要旨

1 リボルビングの考え方と昭和59年度リボルビング報告

現行の経済計画である「1980年代経済社会の展望と指針」（以下「展望と指針」という）においては、計画を事態の変化に柔軟に対応させ時代の要請に合致したものとしていくため、計画最終年度（1990年度）を固定しつつ、毎年、経済社会の展望と政策運営の指針について見直し（リボルビング方式）。

昭和59年度リボルビング報告：昭和59年12月20日内閣総理大臣に提出、同21日、閣議報告。

2 内外経済の現状と展望および政策の実施状況

(1) 「展望と指針」策定後の内外経済情勢は、現在（昭和59年末）まで、概ね「展望と指針」での想定の方角に沿いつつ、かつそれを上回るスピードで明るさを増す。

世界経済は、アメリカ経済の安定成長の想定を前提に、債務累積問題等構造的な問題等を残しながらも、今後、インフレなき安定成長を継続。

日本経済は、外需の増加率はデモレートなものになるなかで、内需は、堅調に増加（個人消費はある程度の増加、民間設備投資は技術革新の活発化等により着実に増加）。

(2) 「展望と指針」策定後、種々の重要改革を実施（①行財政改革、②民間活力発揮のための環境整備、③金融の自由化・国際化等）。

(3) 「展望と指針」策定後の経済情勢の変化は概ねその想定の方角に沿っており、「展望と指針」で掲げた基本的考え方および経済成長率等に関する想定を変える必要はなし（経済成長率実質4%程度、消費者物価上昇率3%程度、完全失業率2%程度）。

3 新しい成長のための改革と前進

(1) 技術革新、高度情報化が急速な進展を示しつつあり、経済運営の課題は、この動きを新しい成長に結びつけていくこと。

このため、行財政改革の推進、民間活力の活用等により、経済社会の新たな枠組み作りを進めるとともに、内需中心の安定成長を継続。

(2) 「展望と指針」における4重点を中心とした政策の具体化

〔行財政改革の推進〕

景気が回復し、中長期的な展望も明るくなっている今こそ、これを強力に推進する好機。

行政改革については、今後特に、①国鉄改革、②補助金等や許認可等の一層の合理化、

③地方行革を重点的に推進。

財政改革については、①全体としての歳出規模の抑制を図るとともに、②歳入面においても、税負担の公平、適正化および直間比率等税体系のあり方について幅広く検討。

〔民間活力の活用〕

成長基盤を活性化させ、内需中心の適度の成長を達成していくためには、民間活力を最

大限に発揮させることが不可欠。

このため、ディレギュレーション等に引き続き最大限の努力を傾注するとともに、創造的技術開発を推進。

〔高度情報化の進展〕

現在、急速に進みつつある高度情報化は、今後の内需中心の経済成長に重要な役割を担うもの。

このため、市場機能をいかし民間活力を最大限に発揮させることを基本としつつ、総合的に高度情報化に対応。

〔国際経済社会への貢献〕

国際化を積極的に進め、それを挺子にわが国経済社会の活力を世界のために活用。

このため、①多角的貿易交渉の新ラウンドの早期開始にリーダーシップを発揮、②経常収支不均衡の改善、③一層の市場開放、④政府開発援助の積極的拡充、⑤技術協力・人的交流等に努力。

	アメリカ	イギリス	ドイツ
1 名称	・ The Outlook for 1985-89 (中期経済見通し)	・ The Government's Expenditure Plans (公共支出計画)	・ Der Finanzplan Des Bundes 1983 bis 1987 (中期財政計画)
2 策定開始年	・ 1979年 ・ 1984年2月	・ 定例化したのは1969年以降 ・ 1983年2月	・ 1967年 ・ 1983年6月
3 根拠法	・ 1978年完全雇用及び均衡成長法(ハンフリ ー・ホーキングズ法)	・ 法的根拠なし(1961年ブラウデン委員会報 告が契機)	・ 憲法及び経済安定成長促進法(1967年)
4 目的・性格	・ 最大限の雇用機会の創出及び物価の安定を實現 するための連邦政府の責任を明らかにし、経済 政策の統合・調整を図ること	・ ポンド危機への対応と財政支出の安定化が策定 動機 ・ 将来の予算を拘束せず	・ 経済成長、完全雇用、物価安定、対外均衡の4 大目標を達成する上で、財政の健全性を図り、 財政の景気調節・資源配分機能を十分發揮させ ること ・ 将来の予算を拘束せず
5 計画期間及びブ ーリングの有無	・ 1985～89年(5カ年) ・ 毎年度ローリング	・ 1982～85年度(4カ年) ・ 毎年度ローリング	・ 1983～87年度(5カ年) ・ 毎年度ローリング
6 内容	・ 中心的な経済指標(雇用、失業率、CPI、G NP等)について5年間にわたる毎年の量的目 標を設定	・ 全公共支出(中央・地方政府、公共企業体)を ほぼカバー(注) ・ 事項別・性格別の歳出等が各年次毎に提示	・ 連邦政府の歳出、歳入をカバー ・ 事項別・性格別の歳出、租税収入等項目別の歳 入が各年次毎に提示
7 財政計画又は経 済計画との関連	・ 「中期財政見通し」(1974年予算改革法により 5カ年の財政展望が義務づけられる)と対応	・ これに対応する詳細な経済見通しは明らかでな されていない(注)	・ 財政計画の基礎資料としての「中期経済見通し」 が作成され、計画中に掲載される(注)
8 議会との関係等	・ 議会の予算審議の際に提出される大統領経済報 告、予算教書中に示される議会への勧告	・ 議会への提出執行確立、議決は不要	・ 議会への提出義務、議決は不要

(注) 主要な指標として、GNP(需要項目別)、雇用、対外余剰等が明示されている。

(注) ただし、公共支出計画の1980年から予算教書中に中期財政戦略が明示され、その中で歳入見取り・GDPなどが公表されるようになった。

欧米先進諸国の経済計画、財政計画等の概要

(1984.2現在)

	フランス	カナダ	スウェーデン
1 名称	<ul style="list-style-type: none"> • 9 Plan de Developpement Economique, Socialet Culturel (経済社会文化発展計画) 	<ul style="list-style-type: none"> • The Economic Outlook for Canada (経済見通し) 	<ul style="list-style-type: none"> • The 1980 Midium Term Survey (中期経済展望)
2 策定開始年 最新年	<ul style="list-style-type: none"> • 1947年 • 1983年12月 	<ul style="list-style-type: none"> • 1980年 • 1983年4月 	<ul style="list-style-type: none"> • 1947年 • 1980年12月<第8次>(1982年2月に見直し)
3 根拠法	<ul style="list-style-type: none"> • 計画法(憲法の規定により法の形になる) 		
4 目的・性格	<ul style="list-style-type: none"> • 第二次大戦後一貫して策定されており、政府の経済運営を体系的に提示したもの • 各界の広範な協議の下に民主的に作成され、協調的混合経済における「指示的計画」としての役割 	<ul style="list-style-type: none"> • 財政問題が契機となり作成 • 政策決定及び民間の意思決定の際の参考となるもの 	<ul style="list-style-type: none"> • 第二次大戦後一貫して、将来の経済の姿についての官民の共通の認識の必要性から、5年毎に作成 • 政府の政策を拘束せず、政策決定や民間の意思決定の際の参考となるもの
5 計画期間及びローリングの有無	<ul style="list-style-type: none"> • 1984~88年(5カ年) • ローリングはしないが、計画の実行後、組織的な管理・運営制度をとる 	<ul style="list-style-type: none"> • 1983~87年(5カ年) • 期間を含め毎年改訂されている 	<ul style="list-style-type: none"> • 1981~85年(5カ年) • ローリングはしないが、2~3年目に見直し
6 内容	<ul style="list-style-type: none"> • 第8次計画以後明確なマクロフレームを提示せず • 第9次計画の特徴は、主要な目標(対外均衡回復、投資拡大等)達成のための実行手段の明確化にある(12の優先実行プログラムの予算への割り当て、国と地方圏・国営企業との計画契約など) 	<ul style="list-style-type: none"> • GNP<項目別>、CPI、賃金上昇率、雇用、失業率等を明示 • 具体的政策手段についてはあまり言及せず 	<ul style="list-style-type: none"> • マクロ経済フレーム(GDP<項目別、制度別、産業別>、国庫収支、雇用等)の姿を複数提示し、各ケースにおける方向性、問題点等明示 • かなり詳細、広範な叙述がみられる
7 財政計画又は経済計画との関連	<ul style="list-style-type: none"> • 第9次計画で示された枠組みにより、今後、「財政3カ年計画」(1984~86年)が作成される予定 	<ul style="list-style-type: none"> • 「財政支出計画」策定の際の参考 	<ul style="list-style-type: none"> • 「長期予算」策定の際の参考
8 議会との関係等	<ul style="list-style-type: none"> • 政府案として議会に提出、議決が必要 		<ul style="list-style-type: none"> • 参考資料として議会に提出

1980年代経済社会の展望と指針

— 骨 子 —

(総論)

I 基本的役割と考え方

1980年代は、戦後の経済社会の歩みが大きな曲り角を迎える中で、これまでに得た実りを生かしながら、来たるべき21世紀に備えた基礎を築くべき重要な時期である。この「展望と指針」は、1983年度から1990年度(1980年代)を対象とする。

1. 基本的役割

自由な競争を基本原理とした市場経済を基調とする我が国の経済計画の基本的役割は次の通り。

- ① 望ましく、かつ、実現可能な経済社会の姿についての展望を明らかにすること。
- ② 中長期にわたって政府が行うべき経済運営の基本方向を定めるとともに、重点となる政策目標と政策手段を明らかにすること。
- ③ 家計や企業の活動のガイドラインを示すこと。

今回の計画は、その内容を事態の変化に弾力的に対応しうるようなものとしており、こうした性格をより明確化するため、「展望と指針」という名称とした。

2. 今回の「展望と指針」の重点

今回は特に次のような考え方の下に策定している。

- ① 現下の最大の課題である行政の改革・財政の改革を進めること。

行政の役割を抜本的に見直し、簡素化、効率化を図るとともに、財政の健全性、弾力性を確保するための基礎固めに取り組む。

- ② 産業構造の高度化に支えられた新しい成長への歩みを進めること

エレクトロニクスを中心とした技術革新の進展、高度情報社会へ向けての変化等を踏まえ、創造的知識集約化の推進等により産業構造の一層の高度化を推進する。

- ③ 民間活力の役割を重視し、その活用を図ること

技術開発の推進等により民間活力の維持・形成を図るとともに、規制・制度の見直しや諸条件の整備により民間活力が発揮しうるような環境を整え、新たなフロンティアを広げていく。

- ④ 国際協力を推進すること

我が国の経済活力を生かして、経済協力の拡充、産業協力の推進等を通じて、世界経

済の発展のために積極的に貢献する。

3. 指針に沿った政策の実施と情勢の変化への弾力的対応

調整機能に留意しつつ、着実に政策の実施を図る。特に対象期間の前半においては、行財政改革、民間活力発揮のための基盤整備等を中心に、長期的視点に立って来たるべき時代にふさわしい各種の改革を進め、後半にはこうした成果を生かしながら、産業構造の高度化の進展と相まって、経済社会の発展につながっていくことを期する。

流動的な事態の変化に弾力的に対応しうるよう、1990年度を最終年度とするローリング・プラン的な考え方(リボルビング・プラン)に沿って、毎年、経済社会の展望と経済運営の指針の検討を行う。

II 1980年代の歴史的な位置づけと変化の方向

1. 戦後の世界と日本

- ① 戦後の世界経済は、「戦後からの復興の1950年代」、「成長と発展の60年代」、「世界経済秩序の動揺の70年代」を経て、80年代を迎えている。
- ② こうした世界経済の変化の中で、我が国経済社会も、「復興と自立の1950年代」、「高度成長の60年代」、「国際環境の激変への対応の70年代」を経て、80年代を迎えている。
- ③ この間に、我が国経済社会の姿は著しい変貌を遂げた。今後も、21世紀に至る長期的な変化として、国際化、成熟化、高齢化といった流れがある。
- ④ 先進諸国へのキャッチアップを目指して、経済活動のレベルを高め、効率化を図る中で、物質的な豊かさを追求してきた我が国経済社会は、一つの区切りを迎え、長期的にも大きな転換期に直面している。

2. 1980年代の変化の方向

1980年代の我が国経済社会は、国際環境、経済、国民生活の面で多重的に変化していくものと考えられる。

(1) 我が国をめぐる国際環境の変化の方向

- ① 80年代の世界経済は、多極化への動きが続く中で、70年代の混乱の経験を生かしながら、安定的な相互依存の枠組みを求めていくこととなるものと考えられることから、「安定的秩序の模索期」と位置づけられる。
- ② 80年代の世界経済は、インフレの鎮静化、原油価格の下落等を背景に次第に明るさを増すが、財政赤字等の問題もあるため、その拡大テンポは緩やか。

- ③ 我が国は、これまで以上に国際経済社会の発展への貢献が求められるようになる。
- ④ 経済社会の各面における国際化の動きはますます強まり、質的にみても国際化の新たな段階に入る。

(2) 経済の変化の方向

我が国は80年代においても、次のような点からみて先進国の中で良好なパフォーマンスを維持するだけの経済的条件を備えている。

- ① エレクトロニクスを中心とした技術革新の進展が期待されること。
- ② 家計貯蓄率は、次第に低下するが、他の先進諸国よりは相対的に高水準を維持すること。
- ③ 労働力供給の増加率は70年代とほぼ同程度となること。

また、経済社会の構造は次のような面に変化していく。

- ① 技術革新の進展及びトータルな情報通信システムの形成が、高度情報社会へ向けての変化を生む中で、産業構造、就業構造について、知識集約化、サービス化等ソフト化への動きが進む。
- ② 労働力供給面では、高齢化、女性の職場への進出、高学歴化が進む。
- ③ 人口の地方定住化等地域経済社会の変化が進む。

(3) 国民生活の変化の方向

80年代においては、国民のライフスタイルは、生活の時間、場、ニーズの3つの側面でそれぞれ次のような変化が進む。

- ① 生活時間については、平均寿命の伸長、子供数の減少等を背景に、自由時間の増大、生涯学習への関心の高まり、就業形態、労働時間配分の多様化が進む。
 - ② 生活の場については、家庭の機能の見直し、地域における社会参加の場の多様化等が進む。
 - ③ ニーズについては、文化的豊かさを求めて生活の質的向上への志向が高まる一方、安心して暮らせる基礎条件としてのニーズは引き続き重要視される。
- こうして「人生80年型」ライフスタイルへの変化が進む。

3. 求められる創造的安定社会の構築

こうした変化への対応を誤り、従来型の対応をくり返す場合には、①国際的孤立、②経済的パフォーマンスの悪化、③生活不安の高まり、を招く可能性があり、従来にも増して経済社会の安定を目指していくことが求められている。

その際、技術革新、産業構造の変革等の面で自ら独自の道を創造的に切り拓いていく必要があること、また、国民生活の面でも、自主的、個性的、創造的な生き方が求められていることを踏まえ、特に創造的な対応が求められている。

以上のような意味で、1980年代の我が国は、「創造的安定社会の構築期」と位置づけられる。

4. 創造的対応への発想

経済社会の安定を目指して創造的対応を図るに際しては、次のような新たな発想が必要である。

① 「国際性」の重視

平和的な対外関係の下で、経済運営、国民生活のあり方等、全般的な分野で国際的視野からの配慮を強めていく。

② 「民間活力」の重視

多重的な変化の中で、創造性を発揮し、経済社会の新たなニーズに積極的に応えていくため、従来にも増して民間活力が発揮しうるような諸条件を整備していく。

③ 「構造改革」の重視

行政全体を来たるべき時代にふさわしい姿に整えていくとともに、社会的制度、慣行を含め構造的変化に円滑に対応しうるよう、きめの細かい政策的配慮を払う。

④ 「ソフト」の重視

モノ、石油等の資源といったハードな要素に対して、知識、技術、情報、サービスといったソフトな要素を重視し、適切に位置づけていく。

⑤ 「ストック」の重視

安定的な経済社会の基盤として、社会資本等と合わせて、経済社会制度、居住環境、自然環境等を含めた広い意味での国民的資産の充実を図っていく。

III 80年代経済社会の目指す方向と政策

1. 創造的安定社会の構築

(1) 平和で安定的な国際関係の形成

平和を維持しつつ、我が国の経済的活力を活かして、自由貿易体制の維持、世界経済の活性化に積極的に貢献し、開かれた経済社会を形成することとし、次のような政策に重点を置く。

① 世界経済秩序の再構築のため、各国との協調の下、国際機関の機能及び連携の強化等を図る。

② 世界経済活性化のため、内需中心の適度な経済成長と貿易の拡大均衡を目指した経済運営の下に、我が国市場の一層の開放、積極的産業調整の一層の推進、発展途上国への経済協力の充実、投資交流等による産業協力、を行う。

- ③ 国際的に開かれた経済社会の形成のため、広く教育、学術、文化等の面についても、国際化時代にふさわしい国内の環境整備を行う。

(2) 活力ある経済社会の形成

経済社会の活力を維持・形成していくとともに、新たに民間活力が発揮しうる分野を積極的に拡大していくこととし、次のような政策に重点を置く。

- ① 創造的な技術開発を推進し、その成果の活用を図る。
② 創造的知識集約化等による産業構造の高度化を推進する。
③ 規制の見直し、民間資金の導入等により、民間の活力の一層の活用を図るなど、民間活力の維持・形成に努める。
④ 多重的な安全対策を総合的に推進することにより、経済社会安全の確保を図る。

(3) 安心して豊かな国民生活の形成

高齢化の進展等の中で、「人生80年型」のライフスタイルに対応したシステムづくりを進めるため、特に、国民の幸せの基礎である家庭の役割を重視しつつ、次のような政策に重点を置く。

- ① 就業機会の確保、社会保障の整備・改革などにより、個人個人が一生の生活設計を安心して行うことのできるような環境づくりを行う。
② 生涯にわたる教育・学習機会の充実、消費生活の充実等により生活の質的向上を図る。
③ 住宅の質的充実、ゆとりと活力ある地域社会の形成、社会資本の整備等により良質な国土・居住空間を形成する。

2. 経済運営の基本的課題

(1) 適度な成長の下での完全雇用、物価の安定、対外均衡の確保

- ① 世界経済の回復の想定、技術開発の進展、民間活力の発揮等を前提として、経済成長率は実質年平均4%程度、名目6%程度から7%程度。
② 適度な成長を通じた雇用の安定、労働供給をめぐる構造変化に対応した労働政策を推進することにより、1990年度における完全失業率は2%程度。
③ 総需要の管理、競争の促進等諸設の政策をとることにより、消費者物価上昇率は年平均3%程度。また、卸売物価上昇率は1%程度。
④ 内需中心の適度な経済成長を通じて国際的に調和のとれた対外均衡の達成に努める。

(2) 行政の改革と財政の改革

- ① 行政の改革と財政の改革は現下の最大の課題であり、「展望と指針」のねらいを達成していくに際しての重要な基盤を整えるもの。
② 安易な公的部門の規模の拡大を避け、個人の自立・自助や民間の自主的活動を極力尊重するとの観点から、行政の役割を見直し、簡素化、効率化を図る。

③ 今後は、国、地方を通じ、歳出・歳入構造の見直し、合理化等に努め、我が国財政の健全性、弾力性を確保する財政改革の努力が求められている。

即ち、まず歳出面において、現下の諸情勢に即応した行財政の守備範囲の見直し、歳出構造の一層の合理化等を図ることを基本として徹底した見直しを行う。

また、歳入面においても、経済社会情勢の変化に応じて、歳入構造の合理化、適正化に努めるとともに、行政サービスの範囲、水準と負担のあり方を見直すという観点から検討を行う。

こうした努力の積み重ねによって、対象期間中に特例公債依存体質からの脱却と公債依存度の引き下げに努め、財政の対応力の回復を図る。

経 済 の 現 状

1) 世界経済

(1) 先進国経済……アメリカでは、鉄工業生産の低調、設備投資の減少等があるものの、個人消費の堅調な増加等により、景気は引き続き緩やかに拡大している。西欧では、個人消費や設備投資など内需は総じて増加しているものの、輸出の伸び悩みが続いており、景気拡大テンポは引き続き緩やかである。

① 経済成長率 (季節調整済・前期比、年率、%)

実質GNP	1983年	1984年	1985年	1985年7-9月	10-12月	1986年1-3月	4-6月
日本	3.2	5.1	4.5	2.7	5.8	▲2.1	3.6
アメリカ	3.6	6.4	2.7	4.1	2.1	3.8	0.6
西ドイツ	1.8	3.0	2.5	6.9	▲2.7	▲4.2	1.43
イギリス	3.1	3.2	3.6	0.7	2.9	0.7	2.1
フランス	0.7	1.5	1.1	4.0	2.4	0.0	4.5
イタリア	▲0.2	2.8	2.3	1.0	2.3	▲0.4	11.7

(注)日本は1980暦年基準の数値。イギリス、フランス、イタリアは実質GDP。

<参考> OECD経済見通し(1986年5月) (季節調整済・前期比、年率、%)

実質GNP	1986年	1987年	1986年上期	下期	1987年上期	下期
日本	3.25(4.0)	3.00	2.75	2.75	3.00	3.50
アメリカ	3.00(2.9)	3.75(4.0)	3.25	3.75	3.75	3.75
西ドイツ	3.50(約3)	3.00	2.50	3.50	3.00	2.75
イギリス	3.00(3.0)	2.25	3.50	2.25	2.25	2.25
フランス	2.50(2.5)	2.50(2.8)	2.25	2.75	2.50	2.25
イタリア	2.75(2.5~3.0)	2.75(3.0)	3.00	3.25	2.75	2.50
OECD合計	3.00	3.25	3.00	3.25	3.25	3.25

(注)()内は各国政府の経済見通し(ただし日本は1980暦年基準の年度の数値)。

② 物価……アメリカでは卸売物価、消費者物価とも引き続き落ち着いている。西欧では原油価格の低下から、鎮静化が続いている。(前年同期(月)比、%)

消費者物角	1984年	1985年	1986年4-6月	7-9月	1986年7月	8月	9月
日本	2.3	2.0	0.9	0.4 ^P	0.1	0.1	0.6 ^P
アメリカ	4.3	3.6	1.6	-	1.6	1.6	-
西ドイツ	2.4	2.2	▲0.2	▲0.4	▲0.5	▲0.4	▲0.4
イギリス	5.0	6.1	2.8	2.6	2.4	2.4	3.0
フランス	7.0	5.8	2.4	2.1	2.0	2.0	2.3
イタリア	10.6	8.6	6.4	5.8	5.9	5.9	5.8

(注)イタリアは生計費。日本の消費者物価指数は新基準(60年基準)、日本の7-9月、9月は東京都区部速報。

③ 失業……雇用情勢は、アメリカでは部門間のばらつきは大きいものの失業率は低下している。西ドイツなどでは改善がみられるものの、依然厳しい。

(季節調整値、%)

失業率	1984年	1985年	1986年4-6月	7-9月	1986年7月	8月	9月
日本	2.7	2.6	2.8	-	2.9	2.9	-
アメリカ	7.4	7.1	7.1	6.8	6.8	6.7	6.9
西ドイツ	9.1	9.3	9.0	-	8.9	8.8	-
イギリス	11.1	11.3	11.6	11.7	11.7	11.7	11.6
フランス	9.7	10.0	10.5	10.7	10.6	10.7	10.7
イタリア	10.4	10.6	1月 11.5	4月 11.3	-	-	-

(注)イタリアは原数値。フランスは1986年4月以降新系列。

(2) アジア諸国経済……韓国、台湾では輸出の回復から景気は再び上昇している。

(前年同期比, %)

実質GNP	1983年	1984年	1985年	1985年 7-9月	10-12月	1986年 1-3月	4-6月
韓国	11.9	8.4	5.1	5.3	6.1	9.6	12.1
台湾	7.9	10.5	5.1	4.0	5.1	8.1	9.2
香港	6.5	9.3	0.8	-	-	-	-
シンガポール	7.9	8.2	▲1.8	▲3.5	▲5.0	▲3.4	0.8

2) 日本経済の現状

(1) 景気は底固さはあるもののその足取りは緩やかなものとなっており、また景気の二面性がより明瞭になっている。

(季節調整済・前期比, %)

昭和55暦年基準	59年度	60年度	60年		61年		
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
実質GNP	5.0	4.2	1.4	0.7	1.4	▲0.5	0.9
民間最終消費支出 (寄与度)	2.6 (1.5)	2.6 (1.5)	0.5 (0.3)	0.5 (0.3)	0.5 (0.3)	0.6 (0.3)	1.0 (0.5)
民間住宅投資 (寄与度)	0.4 (0.0)	3.7 (0.2)	2.3 (0.1)	▲2.4 (▲0.1)	2.2 (0.1)	2.5 (0.1)	2.7 (0.1)
民間企業設備投資* (寄与度)*	10.9 (1.7)	12.6 (2.1)	5.2 (0.9)	3.7 (0.6)	2.5 (0.5)	0.3 (0.1)	0.4 (0.1)
政府支出* (寄与度)*	0.6 (0.1)	▲1.4 (▲0.2)	▲3.1 (▲0.5)	2.3 (0.4)	1.4 (0.2)	▲0.6 (▲0.1)	8.8 (1.5)
寄与度内 # 外需	3.7 1.3	3.5 0.7	0.6 0.8	1.1 ▲0.4	1.2 0.2	0.3 ▲0.8	1.9 ▲1.0

*60年4月よりNTT、日本たばこ産業の固定資本形成は、両企業の民営化によりIgからIpに計上されるようになった。

① 個人消費……緩やかながら着実に増加している(前年同期(月)比, %, *は実数値(季節調整値))

	59年度	60年度	61年	61年	61年	61年	
			4~6月	7~9月	7月	8月	9月
実質民間最終消費支出	2.6	2.6	2.7	-	-	-	-
実質消費支出(全世帯)	0.7	0.2	1.2	-	1.8	-	-
実質消費支出(勤労者世帯)	1.4	▲0.1	1.0	-	2.4	-	-
実取入(勤労者世帯)	4.6	4.9	2.0	-	▲0.5	-	-
非消費支出(勤労者世帯)	5.5	10.5	4.4	-	▲0.9	-	-
可処分所得(勤労者世帯)	4.4	3.9	1.5	-	▲0.5	-	-
平均消費性向*(勤労者世帯)	78.6	77.1	78.2	-	77.7	-	-
大型小売店販売額	3.8	4.0	5.0	-	3.7	6.1	-
乗用車新規登録台数	▲2.4	▲0.5	8.6	▲0.6	0.2	▲1.6	▲0.8

② 住宅投資……このところ増加している。

	59年度	60年度	61年	61年	61年	61年	
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月
実質民間住宅投資(前年同期比, %)	0.4	3.7	4.5	4.8	-	-	-
新設住宅着工戸数(前年同期比, %)	6.4	3.6	5.5	2.8	4.7	13.5	19.4
同上(季節調整済年率換算, 万戸)	120.7	125.1	132.1	127.0	128.9	136.0	135.8

③ 設備投資……このところ伸びが鈍くなっている。

(前年同期(月)比, %)

	59年度 60年度		61年		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月
実質民間企業設備投資	10.9	12.6	12.2	7.0	—	—	—
機械受注(船舶・電力を除く民需) 建設工事受注額(民間)	17.1 4.7	5.1 10.4	2.3 9.4	▲2.5 7.3	6.8 19.9	▲9.9 27.6	▲7.0 11.5P

*60年4月よりNTT, 日本たばこ産業の固定資本形成は, 両企業の民営化によりIqからIpに計上されるようになった。

(前年同期比, %)

経済企画庁法人企業投資動向調査 (6月調査)	61年			
	1~3月(実績)	4~6月(実見)	7~9月(計画)	10~12月(計画)
資本金1億円以上	3.0	9.1	1.1	▲0.6

(前期(年)比, %)

日 銀 短 観 (8月調査)	60年度			61年度		
	計	上期	下期	計	上期	下期
主 要 企 業 (全産業)	9.0	5.1	▲0.4	▲3.4	▲4.6	8.6
(製造業)	13.2	4.8	3.9	6.1	▲10.7	▲1.9
(非製造業)	4.5	5.5	▲5.4	4.6	3.1	19.9
中 小 企 業 (製造業)	▲2.3	▲7.5	9.4	▲2.9	▲1.4	▲2.4

<参考> 企業収益……全体としては減益傾向にある。また, 急速な円高の進展等により, 製造業を中心に企業の業況判断には停滞感が広がっており, なかなか中小企業の業況感の後退している。

日 銀 短 観 (8月調査) (主要企業)	58年度	59年度		60年度		61年度	
	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
経常利益(前年同期比, %)	2.4	35.3	7.4	0.0	▲8.3	▲20.0	▲19.1
(製造業)	29.3	51.5	16.9	▲0.8	▲26.6	▲38.3	▲19.5
(非製造業)	16.1	8.2	▲7.6	2.1	27.5	20.9	▲18.6
売上高経常利益率(全産業)	2.80	2.71	2.81	2.57	2.62	2.28	2.29
(製造業)	4.24	4.65	4.64	4.41	3.44	3.00	3.10
(非製造業)	1.80	1.37	1.56	1.32	2.06	1.79	1.75

④ 政府支出

(前年同期(月)比, %)

	59年度 60年度		61年		61年		
			4~6月	7~9月	7月	8月	9月
実質公的固定資本形成	▲3.0	▲6.9	7.1	—	—	—	—
公共工事請負金額	▲1.5	3.4	15.7	7.1	5.0	1.2	16.6

*60年4月よりNTT, 日本たばこ産業の固定資本形成は, 両企業の民営化によりIqからIpに計上されるようになった。

<参考>

(兆円)

	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度 (見込み)
国 債 残 高 (年度末)	71	82	96	110	122	134	143

(2) 生産……引き続き弱含み傾向で推移している。

(前年同期(月)比, %)

	59年度 60年度		61年		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月
飲工業生産	9.9	3.5	1.3	▲0.6	0.2	▲1.5	▲3.0
加工・組立型	10.5	5.9	4.4	1.6	2.9	▲0.8	▲2.8
基礎素材型	9.3	1.1	▲1.6	▲2.7	▲2.5	▲2.1	▲3.2

(注)加工・組立型とは資本財と消費財, 基礎素材型とは建設材と生産財の計である。

(3) 在庫

(季節調整値, 55年=100)

	59年度 60年度		61年		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月
生産者製品在庫率指数	95.8	99.7	101.5	102.0	102.6	102.4	103.8
原材料在庫率指数	92.3	91.7	91.0	92.4	94.6	95.6	93.3P
販売業者在庫指数	104.7	107.4	110.8	105.8	102.4	105.5P	—

(4) 雇用・賃金……雇用情勢は弱含みに推移している。

	59年度 60年度		61年		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月
有効求人倍率(季調値, 倍)	0.66	0.67	0.66	0.62	0.60	0.61	0.61
完全失業者数(季調値, 万人)	159	158	159	166	163	177	174
完全失業率(季調値, %)	2.7	2.6	2.6	2.8	2.7	2.9	2.9
所定外労働時間(前年同期比)	▲8.5	▲0.5	▲3.0	▲7.7	▲9.1	▲9.0	▲7.6
現金給与総額(前年同期比)	4.3	3.9	4.7	3.8	4.8	3.9	1.1

(注)所定外労働時間は製造業, 現金給与総額は全産業。

(5) 企業倒産……落ち着いている。

	59年度 60年度		61年		61年		
			4~6月	7~9月	7月	8月	9月
倒産件数(月平均, 件)	1697	1527	1555	1408	1448	1365	1404
倒産件数(前年同期比, %)	2.0	▲10.0	▲4.4	▲6.4	▲8.2	▲8.0	▲2.8

東京商工リサーチによる。

(6) 金融

(%)

	59年度 60年度		61年		61年		
			4~6月	7~9月	7月	8月	9月
コール無条件物中心レート(平均)*	6.117	6.414	4.4357	—	4.5048	4.5521	—
利付国債平均利回(上場総平均)	6.743	6.012	4.929	—	4.952	4.732	—
全国銀行貸出約定平均金利(月末)	6.542	6.266	5.822	—	5.725	5.860	—
M1(平残, 前年同期比)	4.0	4.5	6.7	7.8P	7.2	8.5	7.8P
M2+CD(平残, 前年同期比)	7.8	8.7	8.5	8.8P	8.7	8.9	8.9P

*東京

(7) 物価……卸売物価は大幅に下落しており、消費者物価は一層の安定を示している。

(前年同期(月)比, %)

(ウェイト)	59年度	60年度	61年 4~6月 7~9月		61年 7月 8月 9月		
総合卸売物価指数(100.0)	0.2	▲2.9	▲9.7	11.2	▲10.7	▲11.2	▲11.8
国内卸売物価(76.3)	0.2	▲1.5	▲4.1	▲5.6	▲5.0	▲5.2	▲6.4
輸出入物価(11.3)	1.9	▲6.1	▲16.5	▲17.5	▲17.5	▲17.8	▲16.9
輸入物価(12.4)	▲0.9	▲8.7	▲38.3	▲42.9	▲41.9	▲43.9	▲43.0
消費者物価指数(100.0)	2.2	1.9	0.9	0.4*	0.1	0.1	0.6*
商品(58.0)	1.6	1.1	▲0.1	▲1.2*	▲1.3	▲1.3	▲0.9*
サービス(42.0)	3.3	3.3	2.3	2.1*	2.1	2.1	2.1*
(公共料金(狭義))(15.6)	3.6	2.6	1.0	▲1.9*	▲0.8	▲1.0	▲1.7*
(生鮮食品を除く総合)(94.0)	2.3	1.9	1.3	0.8*	0.6	0.5	0.7*
帰属家賃を除く総合(91.0)	2.2	1.9	0.7	0.1*	▲0.1	▲0.2	0.3*

(注) 消費者物価指数は新基準(60年基準)。帰属家賃を除く総合は旧基準(55年基準)の消費者物価指数に対応。

* 消費者物価指数の7~9月, 9月は東京都区部速報。

<参考> 原油価格の低下……交易条件は改善

(cifベース ドル/バレル)

	59年度	60年度	61年 4~6月 7~9月		61年 7月 8月 9月		
原粗油通関輸入価格	29.14	27.31	14.08	10.98	11.88	10.34	10.84
スポット価格(北海ブレンド)月央値	28.89(暦年)	27.38(暦年)	12.50	12.72	9.70	14.00	14.45

(8) 国際収支

① 輸出入(通関ベース)……輸出は弱含みに推移し、輸入は基調として製品類等を中心に増加している。

(金額はドルベース 前年同期(月)比, %)

	59年度	60年度	61年 4~6月 7~9月P		61年 7月 8月 9月P		
通関輸出数量	13.3	3.3	▲0.7	0.3	▲0.9	▲3.4	3.2
通関輸出金額()内は円ベース	11.1(14.0)	7.7(-1.1)	21.6(-17.3)	24.7(-18.5)	23.6(-18.1)	21.5(-20.9)	28.8(-16.8)
地域別通関輸出金額							
アメリカ	30.1	12.9	24.3	27.9	28.6	26.7	28.2
E C	2.2	16.2	70.1	70.7	66.9	71.8	73.3
東南アジア	1.8	▲6.2	23.9	41.9	39.0	37.9	48.8
中近東	▲21.7	▲7.9	▲8.5	▲33.6	▲23.8	▲35.1	▲41.3
中国	56.7	43.2	▲31.0	▲20.2	▲21.1	▲25.1	▲14.0
通関輸入数量	7.0	1.1	16.9	18.1	21.3	13.7	21.0
通関輸入金額()内は円ベース	40(6.7)	-3.3(-10.9)	-1.9(-33.2)	-35(-36.9)	0.1(-33.7)	-9.7(-41.2)	-0.9(-35.9)
商品別通関輸入金額							
加工製品	11.7	0.6	37.9	43.3	57.6	21.1	51.6
原料	2.9	▲7.3	▲4.1	▲3.0	▲4.4	▲1.8	▲2.5
鉱物性燃料	0.3	▲6.7	▲10.2	▲46.0	▲4.3	▲46.9	▲46.8
食料品	1.1	4.3	27.9	18.2	8.3	20.2	27.0

<参考> 貿易バランス (輸出(fod)-輸入(cif):原数値, 億ドル)

	58年度	59年度	60年度	61年4~9月P
対米	210	338	433	264
対E C	101	100	127	92
対中近東	▲167	▲193	▲172	▲22
対世界	233	351	526	463

② 国際収支 (IMF ベース) …… 経常収支は大幅な黒字が続いている。

① ドルベース

(季節調整値, 億ドル)

	59年度	60年度	61年度		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月	8月P
輸出入	1679	1807	477	515	172	175	178
輸出入	1223	1191	303	289	104	98	90
貿易収支	456	616	174	226	69	77	88
経常収支*	370	550	155	218	67	71	77
長期資本収支	▲542	▲732	▲190	▲289	▲70	▲120	132
基礎収支	▲172	▲182	▲35	▲71	▲3	▲49	55

*原数値

② 円ベース

(季節調整値, 100 億円)

	59年度	60年度	61年		61年		
			1~3月	4~6月	6月	7月P	8月P
輸出入	4094	3976	897	875	289	278	274
輸出入	2982	2625	570	491	174	156	139
貿易収支	1112	1351	327	384	116	122	135
経常収支*	902	1208	291	371	113	112	119
長期資本収支	▲1319	▲1616	▲360	▲493	▲115	▲190	▲203
基礎収支	▲418	▲408	▲68	▲123	▲2	▲77	▲84

*原数値

< 参考 >

① 為替レート

	59年度	60年度	61年		61年		
			4~6月	7~9月	7月	8月	9月
円 レート (円/ドル)	244.19	221.09	170.13	155.77	158.60	154.00	154.72
米国 T B 金利 (3ヵ月物, %)	9.52(暦年)	7.48(暦年)	6.14	—	5.83	5.53	—

② 米国の財政赤字の現状と見通し

(10 億ドル)

	87年度	88年度	89年度	90年度	91年度
政府見通し	144	98	61	23	7*
(参考) 現行制度下の赤字	172	140	111	91	64

(注) off-budget を含む。1987 年度予算年央改訂見通しによる。*は黒字

③ 発展途上国経済……債務累積問題

(10 億ドル)

	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年
債務残高 (中東産油国を除く)	568	662	752	798	841	888	943

IMF World Economic Outlook 1985 ADr.

1985, 1986 は見通し。

Ⅳ 最近の経済情勢

1. 訪問3ヶ国の主要経済指標

	ペルー			パラグアイ			ブラジル		
	1983	1984	1985	1983	1984	1985	1983	1984	1985
経済成長率 (％) (GDPの伸び1980年基準)	△ 12.0	4.7	1.6	△ 3.0	3.1	4.0	△ 32	44	83 (推定)
国民総生産 (GNP)	2533	581.1	1,530.6	823.1	1,068.1	1,387.0	1134	3658	—
		(推定)			(単位:10億ガラニ)			(単位:10億クルザード)	
# (億ドル)	155.5	167.6	139.5	65.3	53.1	57.8	19658	19796	—
		(推定)							
1人当たりGNP (ドル)	831	873	708	1,883	1,620	—	1516	1493	—
		(推定)							
消費者物価上昇率 (％)	111.2	110.2	163.4	13.4	20.4	25.2	164.4	208.9	233.7
貿易 輸出(100万ドル)	3,015.2	3,147.1	2,966.4	342.5	380.8	403.0	21,899	27,005	25,639
輸入(#) (cif)	2,548.0	2,212.0	1,835.0	631.2	675.3	815.5	16,801	15,210	14,332
対外債務残高 (億ドル)	125.2	133.9	137.9	13.0	14.5	17.1 (推定)	580.7	1,043.8	1,019.0 (推定)

(出所) ブラジルの経済成長率1985年, 消費者物価はブラジルの資料
 ブラジル対外債務は世銀資料, ただし1985年はECLAC暫定値
 ペルー, パラグアイの対外債務は各国資料
 その他はIMF, IFSより

2. ペルー編

1) 歴史的背景

インカの源, アンデス文明の歴史は古く, 今から約3,000年前, チャビンと呼ばれる一大神殿文明が発生し, 地方文化が生まれ, 都市国家が形成され日本が室町時代の頃, クスコを中心インカ帝国が栄えた。1531年にスペインのピサロに滅ぼされ, 1821年独立するまでスペインの中南米植民地支配の拠点となった。

ペルーは歴史が物語るように, 人種構成はインディオ47%, 混血40%, 白人12%と, インディオとスペイン的世界が各々自己を生かしながらも, すべてに柔らかく混ざり合った独特で複雑な国である。

日本との関係は古く, そして深く, 中南米諸国中最も早く国交が樹立され, 第2次大戦開始までに21,000人の農業移民を送り出した。現在, ペルー国籍の日系人は約70,000人とされている。

2) 最近の経済情勢

ペルーは農・鉱業国である。特に鉱物資源は銅, 鉛, 銀, 亜鉛, 鉄, 石油等豊富で, 輸出

総額の約6割を占めるといって一次産品輸出依存経済である。

ところが、世界的な景気の後退から一次産品価格は低落し、他方製品の輸入価格は上昇するというダブルパンチに見舞われた。1980年以降、外貨収入は年平均20億ドルも減った。現在の輸出総額は30億ドル、1人当たり国民所得は20年前の水準に戻ってしまった。累積債務はGNPの80%、年間輸出額の5倍となっている。

3) 対外債務問題

ガルシア大統領は就任以来IMFに対して輸出所得の10%しか債務を返済しないという強硬路線をとっている。そのため8月15日に支払い期限の延滞利子1億8,600万ドルについても3,500万ドルしか払わなかった。

これについてフィグロア中銀総裁は、返済意志は基本的に変わらないものの、国内的に、近年特に厳しくなったテロ対策や麻薬取締りのための支出が増え、国際的には、保護貿易主義の台頭や一次産品価格暴落のために、輸出が減少してきたためにペルー経済が危機的状況に陥っており、8月15日に2億ドル近い外貨を支払うことはペルー経済に一層の悪化を招くものである。今後とも可能な限り支払いのため最大の努力を払うと言っているが、IMFはペルーに対し「融資不適格国」と宣言した。

その後、新規融資はかなり停止されたが、87年度予算案の中で政府は、87年の対外借入れは前年比5%増の22億6,900万インティ(約1億6,300万ドル)を考えている。また、87年に支払い期限がくる債務返済額は18億2,200万ドルに達するが、約18%の3億2,700万ドルのみ予算化している。

4) 雑感

8月5日、日本では猛暑の頃、ペルー入りした。滞在5日間中空はどんよりと暗く、肌寒く、一般的な南米のイメージとは相当異なっていた。また、午前1時から5時までは外出禁止という戒厳令がしかれており真夜中のリマ市内は武装した軍人が目立っていた。

中部鉱業公社では、一次産品価格暴落の影響を強く受けているが、生産量を落としたり、従業員を解雇するということはせず、逆に生産量を増やしたり、希望退職を募る等で不況を乗り切っているという話を聞いた。

中央準備銀行を訪問した時は、IMFへの返済期限8月15日直前で大変な時期だったにもかかわらず、借入れはひかえめな政策、なによりも国内経済を安定、向上させることが第一、とスペイン的なブライドの高さをのぞかせていた。

リマ市内を車で走ると、年間を通して雨が少ないせいか街の緑は白っぽく、都市への人口集中化のためスラム街が方々でみられ、経済・都市政策の困難さを痛感させられた。

しかし、日本人移住者が持込んだ日本の野菜類は数多く、魚介類も豊富、フルーツも豊富、何よりも物価が安い(しかし、ガス入りの水しかないのには閉口したが)、こと等が印象的であった。

3. パラグアイ編

1) 歴史的背景

1537年、スペイン人により創建され、1811年に独立するまで長い間スペインの統治下にあった。独立と同時に27年間鎖国政策をとった。そのためパラグアイ人の96.5%はスペインとインディアンとの混血による新しい人種である。日本人の移住は1936年に始まり、現在、約7,000人の日系人が居住している。

1954年、革命によりストロエスネル大統領が政権を握り、以来32年間施行を行っており、クーデターの多い中南米諸国の中ではめずらしく政情治安とも安定している。ただ、73才と高令であり、有力な後継者がいないということが今後の問題といわれている。

2) 最近の経済情勢

日本の約1.1倍の国土、人口密度は1㎢7.5人（日本は280人）と広大な土地、肥沃な“黄金の三角地帯”からもわかるように、パラグアイの産業構造は農業と牧畜である。農業は大豆、マンジョカ、綿花、タバコ、トウモロコシ等が伝統的な生産物である。牧畜の中心はチャコ地方で、自然草地の放牧飼育である。主たる外貨収入源もこれら一次産品であり、輸出の伸び悩みによる貿易収支の悪化が目立っている。一次産品価格暴落の他、主な輸出国である隣国ブラジル、アルゼンチンの経済不振、複雑な為替相場が経済政策の運営を困難にしているようである。

債務残高はペルーほどではないが、年々増加しており、1985年末の残高はIMF推定によると1,712.2百万ドル、デット・サービス・レシオは85年には41.6%に達し、国際収支への負担が重くなりつつある。

3) 複雑な為替相場

現在、3種類の公定レートと毎日変動する自由レート、合計4種類の為替相場があり、相場の混乱はパラグアイの経済不況に拍車をかけている。

1986年5月の為替相場は次の通りである。

○輸出レート 1ドル 320ガラニ

○政府・公共部門の行き輸入

農業関連重要品目（肥料、殺虫剤等）に関する民間の輸入

} 1ドル 240ガラニ

○農業関連重要品目以外の民間の輸入 自由レート

○外国からの借款及び債務返済 1ドル 160ガラニ

政府・公共部門の輸入及び債務返済は、特にガラニ高に対して財政負担を軽くする措置がとられているが、輸出レートとの差額を中央銀行が通貨発行で補っているため、自由相場のガラニが下落するという構造になっている。

今後政府は、輸出振興のための切り下げと、輸入と債務返済のためのガラニの価値の維持という2つの矛盾する問題をどのように調整するかが当面の為替制度の問題となっている。

4) 雑感

亜熱帯気候のためパラグアイ人は朝が早い。我々も“郷に入れば郷に従え”7時30分に面会予約が2日も続いた。厳しい寒さがなく、広い国土に対して人口が少なく、飢えることもないという恵まれた環境からか、パラグアイ人は陽気で楽道家でお客を歓迎する。どこに行ってもマテ茶が出される。

中央食品卸売市場には数人のJICAの日本人専門家が働いており、日系人の作る日本の野菜のほとんどが並べられている。対日感情は非常によく、これは日本から移民した人達が森林や原野を次々に開拓し、パラグアイ人の食卓に野菜類を供給し、大豆でドルを稼ぎ、輸入していた小麦の国内生産を可能にしたからと聞いた。

パラグアイは賭博が認められており、ストロエスネルのカジノには“友情の橋”を渡って楽しみに来る隣国からの観光者が多い。又、ストロエスネルはフリーポートとなっており、無税で買物ができるため、隣国からの買物客も多く、パラグアイとブラジルを結ぶ街、ストロエスネルは活気のある街である。イタイブーダムもここにあり、ブラジルと共同で工事を進めている。非常に大規模なダムで、その有効活用や安全性について考えさせられた。

4. ブラジル編

1) 歴史的背景

1500年、ポルトガルのカブラルにより発見され、1822年にポルトガルから独立した。人種的には土着のインディオ、ポルトガル人、アフリカからの黒人奴隷、そして19世紀に入り、ポルトガルはもとよりスペイン、イタリア、ドイツ、そして日本から移住者が入り、これが混血し、新しいタイプのブラジル人が生まれつつある。

現在日系人は約80万人に達しており、彼等の社会的地位はかなり高い。1985年の日本からの移住者は漸減傾向にあるものの258名であった。

2) 最近の経済情勢

ブラジルは中南米随一の工業国である。1960年代後半以降、政府の積極的な外資導入、資本財輸入の増大、税制恩典供与、輸入代替（国産化）を目指した工業化政策により急速な成長を遂げ、1985年にはブラジルの総輸出に占める工業製品輸出の割合は57%に達した。農産物、特にコーヒーも重要な輸出品目であり、貴重な外貨収入源となっている。また、豊富な鉱物資源にも恵まれており、中でも鉄鉱石は重要な輸出品の一つである。

エネルギー問題については、石油の大半を輸入していることから、石油消費節約、国内石油の増産、安定供給確保、代替エネルギーの開発（水力発電としては現在進行中のイタイブー・ダム等、また、政府は、砂糖きびから生産したアルコールをガソリンに混入するというアルコール計画に力を入れている）等のエネルギー政策に取り組んでいる。

1980年末以降、引締め政策をとっており、82年メキシコに端を発した国際金融不安の影響を受け、発展途上国の中でも最大の累積債務を抱えている。輸出総額25.6億ドルに対

し、債務の年間支払い額だけでも100億ドルを上回っている。85年以降の債務救済について国際民間銀行団と交渉した結果、85年、86年に満期到来の債務繰延べについて合意に達している。

3) 新経済政策の概要

1985年4月に就任したサルネイ大統領は、就任後“第一次国家開発計画”を策定したが200%台のインフレは依然として続いていた。そのため86年2月28日デノミ実施、物価凍結等を含むインフレ抑制策、“クルザード・プラン”を発表した。

この計画は44条からなり、主な内容は以下の通りである。

- 通貨単位をクルゼイロからクルザードに変更(1クルザード=1,000クルゼイロ)
- 最低賃金を804クルザードとし、1年間適用する。賃金は年1回の労働協約改訂日に物価上昇率により調整する。そのうち60%が義務づけられ、40%は労使交渉による。また、物価上昇率が20%を超えた場合は自動的に調整する。
- すべての物価を86年2月27日の水準で凍結(家賃については所要の調整後、凍結)
- 失業保険の設定
- クルザードの対ドルレートを固定(1ドル=13.8クルザード)
- 定期預金については物価上昇率+年利6.0%を保証

しかし、“クルザード・プラン”施行後、店頭から次第に牛乳、牛肉等が姿を消し、基本物資の供給不足や自動車等の購入に対するプレミアムの要求等、物価凍結の弊害が目立ってきた。そのため政府は7月23日、“クルザード・プラン”のなしくずし傾向を防止し、過熱した消費を抑制するため“クルザード・プラン補完政策”，そして、経済成長の持続と雇用の安定を図るために“プラノ・デ・メータズ，4ヶ年国家投資計画(1986～89年)”を発表した。

“補完政策”としては

- 国家開発基金の創設
- 公企業体の年金基金の準備金30%を国家開発基金へ投資することを義務づける
- ガソリン、アルコール及び自動車消費に対する28%の強制借上げ
- 新ボウバンス預金(市場の動向に沿った変動利息とする)設定
- 投資信託に関する外国人参加の規定緩和
- 先物取引に対する所得税課税
- 海外旅行に対する25%の課税
- 金融市場取引に対する所得税率を変更(短期操作については大幅引上げ、長期については減税、要するに短期から長期にする方針)
- 税制分野の変更

等が採用された。

“4ヶ年投資計画”は、経済成長を年7%、86～89年の4年間に660万人の新雇用を創出、1人当たり国民所得を約2,000ドルに増やすことを主要目標としている。この計画の財源は“補完政策”で創設された「国家開発基金」であり、この基金は“補完政策”で決定されたすべての課税等からなる資金で構成される。“4ヶ年投資計画”の予算は約1,000億ドル、このうち46%を経済開発に不可欠な分野（電力、製鉄、運輸、通信等）に、50%を低所得層を対象とした食料補給等社会部門に向けられる予定である。

これら一連の措置は、サルネイ大統領はブラジルが先進国として飛躍するための基礎固めとして重要であると訴えているが、11月の選挙以降、大幅な修正を余儀なくされる可能性もとりざたされている。

4) 雑感

ブラジルの国土は広大で、地域格差は相当あり、人口の都市集中化のためスラム街が目につくが、国民はサンバの踊りの様に開放的で陽気、包容性に富み、街は活気に満ちている。

“クルザード・プラン”の結果が確かにスーパーマーケットに行くと肉はない。しかし、ブラジル料理で有名な“シェラスコ”料理屋では肉はなくなることはない。開市場が活発になるのであろう。この“クルザード・プラン”では物価上昇率がかなり重要な役割を果たしているが、開市場は物価統計には反映されていないようであり、物価が20%を超えることを政府は極力回避している。

ブラジルは日系人が一番多く住んでいる国である。しかし、日本語が話せない人が多いことは歴史の流れとはいえ、残念なことと思った。日系人社会も様々であり、日系人同士の結婚を望む人もいれば、日系人という意識を全く持っていない若い人、日本語学校の少なさ、日系人同士の結婚でも家庭ではポルトガル語が優先、同じ顔をしていても考え方は全く違う日本人、70才過ぎた老人でまだ日本の土を踏んだことはなく是非1度と祖国への強い執着、高い航空賃、1人1,000ドルの持出し制限、等いろいろ考えさせられた。

V ま と め

今回のフォローアップでは、クwestionネアの回収と同時に面会可能な研修員については出来る限り面会し、現在の仕事の内容、セミナーに対する意見、評価、効果、そして今後のセミナーの改善点について討論した。面会した研修員の中には初期のセミナー参加者も多く、それぞれの職場において重要な役職についており、単にセミナーに関してだけでなく、日本の経済協力のあり方やそれぞれの国の当面している経済の問題点等について幅広く意見を聞くことが出来た。

3ヶ国を訪問して特に強く感じたことは、すべての研修員が経済開発セミナーを高く評価し、日本政府に感謝し、大変な親日家になっているということである。

この経済開発セミナーのフォローアップは昭和50年度、55年度に次いで3回目であるが、これまでの報告書にも指摘されている意見や要望が今回もどこに行っても聞かされたことは、実施機関としてセミナーのあり方等を改善する必要性を痛感させられた。

第1に、研修員の英語力の違いがセミナーのスムーズな運営を妨げていること。

第2に、アフターケアとして、日本からの資料を継続して送付してほしいこと。

等である。語学力のチェックについては、従来の要請書(A3フォーム)だけでは十分把握することが不可能であり、カンントリーレポートの同時提出、それに加えて、現地の日本大使館、あるいはJICA事務所での面接等を通してチェックする等、改善するのも一案である。また、アフターケアとしての資料(各種白書、経済計画、経済政策、経済開発等)の送付についてであるが、これはかなり費用のかかることでもあり、送付される資料が十分生かされるか否かについて問題はあるが、明確なシステムを作るのも一案であろう。

さらに、今後改善すべき点としては、経済開発セミナーの質的向上があげられる。毎年、セミナー終了時点で、Final ReportやEvaluationで出された反省点をもとに次年度のセミナーについて、JICA及びセミナー実施機関はより一層充実したセミナーになるよう努力してきた所ではあるが、経済開発の諸問題が異なる途上国の研修員が同一の講義を受けるのであるから、各研修員のニーズに沿ったきめ細かい研修計画を策定するのは不可能に近いといっても過言ではない。しかし、その上でなお質的改善を求めるなら、同一の問題を抱える地域別のセミナー(例えば今年度はアフリカ、来年度は中南米等、途上国をいくつかのグループに分ける)、あるいは参加国は例年通りとし、研修内容を総論と各論に分け、総論は全員が出席し、各論を地域別に分けて行うのも一案であろう。

とにかく、この経済開発セミナーは今年度で23回目を迎えたが、全面的にセミナーを考え直すいい時機といってもよからう。

今回のフォローアップで帰国研修員より聴取した貴重な意見は今後の経済開発セミナーの発展のために十分取り入れていく所存である。

最後に、今回の巡回指導実施に際し、御協力を賜った関係各位の皆様に深く感謝の意を表したい。

VI 関 連 資 料

1. 経済開発セミナーの概要	50
2. 経済開発セミナー国別研修員受入実績表	53
3. 昭和60年度経済開発セミナー・カリキュラム	54
4. 昭和60年度経済開発セミナー終了時のエバリュエーション集計結果	57
5. フォローアップチーム派遣に係る研修事業部長書簡及び質問書	64
6. 英文所見	
1) ベルー	76
2) パラグアイ	83
3) ブラジル	89
7. 帰国研修員リスト	
1) ベルー	93
2) パラグアイ	94
3) ブラジル	95

1. 経済開発セミナーの概要

1. コースの目的

本コースの目的は、開発途上国の経済社会開発に資するため、我が国の経済開発及び計画に関する経験等を、開発途上国の中央官庁中堅職員に対し、講義、討論、及び研修旅行を通じて紹介するものである。併せて、カントリーレポート（研修員による自国経済社会開発についての報告）等を基に、我が国の経済開発の専門家と研修員との討議を通じて、研修員に自国を含めた経済開発のあり方について考察を深める機会を提供するとともに、我が国の経済協力政策・方針についての理解、普及に努める。

2. 到達目標

上記本コースの目的に沿い、研修員に対して、主に我が国の経済社会発展に関する経済・開発政策、及び経済計画等の歴史と現状の紹介を通じ、我が国に対する理解を深めるとともに、我が国の経済協力政策、方針についての理解を深め、帰国後に従事する業務に役立ち得る知識を修得させる事を目標とする。

3. 研修項目及び研修方法

○カントリーレポート（討議方式による）

○講義課目

1) 我が国の経済発展と経済・開発政策

世界における日本経済の役割

日本の経済発展について（総論）

工業開発

農業開発

人的資源開発

日本の財政・金融政策

中小企業政策

日本の経済計画と経済企画庁の役割

国土開発計画

社会資本整備計画

経済開発と環境

北海道開発の概要

2) 我が国の経済協力

日本の経済協力

日本輸出入銀行の役割

海外経済協力基金の役割

国際協力事業団の役割

○研修旅行

京都、大阪（４泊５日）、北海道（５泊６日）

研修スケジュール作成に当たっての狙いは次の通りである。講義は大別して２つの分野に分けられる。

- 1) 我が国の経済発展に関する経済・開発政策については、我が国の経済発展の過程を歴史的に把握し、明治以降120年にわたる経済社会の発展を概観するため、我が国の経済・開発政策の各分野についての講義を行う。特に、経済政策については、我が国の財政金融政策についての講義を行うとともに、経済政策の分野での経済企画庁の役割について講義を行う。

それらを通じて、開発途上国の経済社会開発のあり方について考え、カントリーレポートなどと合わせて、経済社会開発についての理解を深める。

- 2) 我が国の経済協力としては、海外経済協力基金、及び日本輸出入銀行の役割を中心に、加えて技術協力の方面での国際協力事業団の役割について講義を行う。

第2週は、研修員がカントリーレポートを発表し、それに対する我が国の経済開発の専門家との意見交換、質問及び討論を通して、経済計画、開発政策についての相互理解を深める。

第4週、第6週に予定されている京都、大阪研修旅行、及び北海道研修旅行では、我が国の各地域の産業、文化等を実際に見学させ、我が国についての理解を深めさせる。北海道では、主に、中小の地域産業、及び農業を、京都・大阪では、伝統産業及び開発政策の各分野における関連施設、また、ハイテク関連企業の見学をそれぞれ行う。

4. 研修員参加資格要件

1) G. I. 記載の応募条件

- (1) 所定の手続きに基づき、政府より指名された者であること。
- (2) 現在、中央政府の経済開発計画に1年以上参画している者であること。
- (3) 原則として、年齢35才以下の者。
- (4) 大学で経済学を履修した者、又は経済政策及び経済計画に関し適当な経験と知識を有する者。
- (5) 英語の読み書きが堪能であること。
- (6) 心身共に健康であること。妊娠中の者はコース参加資格を有しない。

2) 入選方法及び選考基準

割当国に対して、日本大使館等を通じて配布された本コースのG. I. に基づいて相手国政府から提出される要請書により、G. I. 記載中の資格要件を主たる選考基準として、国際協力事業団と経済企画庁との協議のうえ、入選を行う。

具体的には、概ね以下の点に留意して入選する。

- (1) 原則として、応募のあった国から少なくとも1名受け入れる。
- (2) 1カ国から複数の応募がある場合は、優先順位の高い者を受け入れる。

5. 研修期間、定員及び関係機関

1) 研修期間

例年、9月上旬より6週間

2) 定員：13名

3) 関係機関

(1) 研修実施機関

社団法人・日本リサーチ総合研究所

(2) 研修企画・指導機関

経済企画庁

2. 経済開発セミナー国別研修書受入実績表

(・第9回までは「経済計画セミナー」の名称を使用)

回数 (年度)	年度																						計	備考
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
①アジア地域																								
・バングラデシュ										1			1		1	1	1		1				6	
・ビルマ		1																					1	
・中国(台湾)	(1)	(1)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)												1	1	1	3 (7)	()内は台湾
・インド								3							1	1							5	
・インドネシア	2	2	2	2						1	1					1	2	1	1		1	1	17	
・韓国																1	1	2					4	
・マレーシア									1			1	2	1	1		1	1	1	1	1	1	11	
・ネパール											1	1	2	1	1					1		1	8	
・パキスタン	2	2	1					1		1				1	1	1					1		11	
・フィリピン	2	2	2	1			2								1	1		1	1	1	1	1	16	
・シンガポール	2														1	1	1	1	1	1			8	
・スリランカ	1	1	1																				3	
・タイ	2	4	2	1	3	1	2	1		1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	32	
・ヴェトナム	1		1					1			1	1											5	
②中近東地域																								
・エジプト	1		1		1		1						1	2		1	1	2		1		1	13	
・イラン			1		1	1	1	2		2	2		1			1							12	
・イラク				2	1	1													1		1	1	7	
・ヨルダン																	1						1	
・モロッコ																					1		1	
・サウジアラビア										1													1	
・スーダン																	1			1		1	3	
・シリア				1	1																		2	
・トルコ															1	1		1					3	
③アフリカ地域																								
・ベナン																						1	1	
・エチオピア										1		1											2	
・ガーナ											1	1	1				1		1	1	1	1	8	
・ギニア																						1	1	
・象牙海岸																			1				1	
・ケニア											1												1	
・リベリア												1											1	
・マリ																				1			1	
・ナイジェリア	1			2		1																	4	
・セネガル																					1	1	2	
・ソマリア				1	1																		2	
・タンザニア											1												1	
・ウガンダ													1	1	1	1							4	
④中南米地域																								
・アルゼンティン	1				1		1		1										1				5	
・ボリビア								1		1										1			3	
・ブラジル	1								1	2	2	1	1		1	1	1		1	1	2		15	
・チリ								1				1											2	
・コロンビア					1			1		1	1	1											5	
・エクアドル				1	1	1		1															4	
・エルサルヴァドル													1										1	
・ホンデュラス									1										1	1			3	
・メキシコ	1						3								1				1		1	1	9	
・ニカラグア									1	1													2	
・パナマ				1																	1		2	
・パラグアイ		1	1	1	2	1	1				1	1	1	1	1						2	1	15	
・ペルー	2		1	2	3	1	1		1	2		1	1			1	1	1					18	
・ヴェネズエラ	1								1														2	
⑤オセアニア地域他																								
・フィジー																						1	1	
・ユーゴスラヴィア																						1	1	
計	21	14	13	11	17	11	15	9	10	12	13	10	15	12	13	16	13	15	13	15	15	14	297	

3. 昭和60年度 経済開発セミナー・カリキュラム

研修日程

受入期間 9月5日(木) ～ 10月23日(水)
 セミナー期間 9月9日(月) ～ 10月21日(月)
 講義時間 午前 10:00～12:30
 午後 14:00～16:30

日	時	テ	マ	講	師	場	所
9月	9日(月)	開	講	式	事務次官表敬		経済企画庁
		世界	における	日本	経済の	役割	
		官	本	邦	男		
9月	10日(火)	経	済	計	画		"
		産	業	政	策		
		法	専	充	男		
		山	下	道	子		
9月	11日(水)	工	業	開	発		"
		人	的	資	源	開	発
		細	野	昭	雄		
		笹	島	芳	雄		
9月	12日(木)	農	村,	農	業	開	発
		日	本	の	経	済	発
		展	展	の	失	敗	談
		荏	開	津	典	生	
		佐	倉		致		"
9月	13日(金)	筑	波	見	学		
9月	17日(火)						
		日	本	の	経	済	発
		展	展	に	つ	い	て
		大	川	一	司		経済企画庁
9月	18日(水)						
9月	19日(木)	財	政	金	融	政	策
		技	術	開	発	政	策
		齊	藤		潤		"
		柳	沼		寿		
9月	20日(金)	国	土,	地	域	開	発
		経	済	開	発	と	環
		境					"
		高	津	定	弘		
		田	島	哲	也		

日	時	テ	マ	講	師	場	所
9月24日(火)							
			京都, 鳥羽, 名古屋研修旅行				
9月28日(土)							
9月30日(月)		日本の経済協力		上野達雄		経済企画庁	
10月1日(火)		経済協力と貿易投資 OECDの役割		田中四郎 河野善彦		輸銀 OECD	
10月2日(水)		開発途上国経済における 我が国の役割		平島重望		アジア経済 研究所	
10月3日(木)		国際協力事業団と技術協力		神田道男		JICA	
10月4日(金)		北海道開発の概要		小磯修二		経済企画庁	
10月7日(月)			北海道研修旅行				
10月12日(土)							
10月14日(月)			カントリーレポート			経済企画庁	
10月18日(土)							
10月21日(月)		エバリュエーション 閉講式				JICA	

講 師

経済企画庁 調整局	宮 本 邦 男
経済企画庁 調整局産業経済課	山 下 道 子
東京大学 農学部	荏開津 典 生
国際開発センター	大 川 一 司
筑波大学 社会工学系	細 野 昭 雄
日本開発銀行 設備投資研究所	柳 沼 寿
国土庁計画・調整局総務課	高 津 定 弘
環境庁 国際課	田 島 哲 也
経済企画庁 調整局経済協力第二課	上 野 達 雄
日本輸出入銀行 総務部海外課	田 中 四 郎
北海道開発庁 企画室	小 磯 修 二
経済企画庁 調整局財政金融課	斉 藤 潤
海外経済協力基金 総務部業務課	河 野 善 彦
労働者 大臣官房政策調査部総合政策課	笹 島 芳 雄
経済企画行 総合計画局計画課	法 専 充 男
学習院大学 経済学部	佐 倉 致
アジア経済研究所	平 島 重 望
国際協力事業団	神 田 道 男

4. 昭和60年度経済開発セミナー終了時のエバリュエーション集計結果

1) 評価会の要旨

司会者の各司会で評価会としては極めて内容の豊かな、実のあるものであったと考える。
以下取上げられた項目を列記する。(順不同)

- ① 科目については焦点を絞り、例えば日本の経済発展の歴史的経緯、主要分野の経済発展政策、世界経済並びに日本経済の現在の問題点などにウェイトをおいてほしい。
- ② 講義の内容がダブらないように予め講師と打合せ、それを調整する必要あり。
- ③ 政策面もさる事乍ら、実践面の講義も必要。
- ④ 講師の選定及講義科目の順序(関連のあるものはなるべく一緒にとりあげてほしい)の決定。
- ⑤ 環境問題の講義より食糧事情をどうするかというようなアプローチの仕方の方が望ましい。
- ⑥ 銀行政策、日本の貿易政策等の講義もとりあげてほしい。
- ⑦ 研修旅行は素晴しかった。(講義の単調さをカバー出来るし、講義で学んだ事を自分の眼で確かめる事も出来る)
- ⑧ 土曜日は単なる休日ではなくもっと有効に活用すべきであると思う。
- ⑨ 講義はTICで行なうわけにはいかなかったのか。
- ⑩ ダイヤモンドホテルはあまり良くなかった。講義のあと皆で討論をしたいと思ってもその場所がなかったし、部屋が狭い事もあり精神衛生上よくなかった。
- ⑪ 研修旅行は前述の通り大変良かったが訪問先での時間の浪費、日本文の資料の配布等更に検討を要する事も多かった。
- ⑫ Free TIME については必要・不要の両議論があった。(要は Free TIME の主旨を事前にもっとよく徹底すべきであったし、その呼称に問題があったように思う)。
- ⑬ 再び研修科目の問題にかえるが、同一の事につき講義が繰返された事もあった(前記2との関連)。
- ⑭ 講師の中には与えられたテーマから外れた事を説明する人もいた。
- ⑮ EPAはこういう事をさけるため事前に講義の内容をチェックした方がよいと考える。
- ⑯ そのためには各講師に対し事前にガイドラインのようなものを配布しておくとうまい。
- ⑰ 研修の方法について
 - ① カントリー・レポート・プレゼンテーション
 - ② グループ・スタディ
- ⑱ カントリー・レポートの際に日本人の専門家からの活発な質問が望ましい。
- ⑲ ケース・スタディ形式をとり入れたら如何(日本入専門家を議長として会をとりしき

る)。

- ㉑ パネル・ディスカッションも検討に値いする。
- ㉒ 何よりも英語力のある人を講師に選んでほしい(前記 4)関連)。
- ㉓ レセプションについて
セミナー期間中数回のレセプションがあったが、これは必要か(概ねOKという雰囲気)。
- ㉔ 最新の都内交通地図が必要(既に配ってあるものは若干古い)。
- ㉕ JICAに対する要望
 - ① セミナーの最終評価を送ってほしい
 - ② 参加者の増加
 - ③ 日本語研修の機会を作る
 - ④ 日本人専門家の派遣増加
 - ⑤ JICAとの共同研究の推進
 - ⑥ セミナーのフォロー・アップ
 - ⑦ 同窓会(研修生)制度の積極的育成
 - ⑧ 日本経済の動向に関する情報の入手
 - ⑨ 旅行の際の交通方法の検討(例えば空港に行く際ラッシュ時に大きな荷物を抱えて難儀をした)。
- ㉖ JICAに対する要望事項並びに評価会で取上げられたその他の件につき JICA OFFICER よりの得た回答と確認があり、午後4時半頃、会議を終了。
- ㉗ 兎に角、予想に反し研修員から活発な意見が出され、冒頭にも申述べた通り、かなり実のある会議であった。EPAスタッフもこれらの意見を参考にし、出来るものから順次改善を加えて行きたいと申しておられた。

2) ファイナルレポートの要約

(1) 研修の成果と評価

(別添Aご参照)

A ; 61 (24%) B ; 175 (70%) C ; 14 (6%)

評価は上記の通りである。

- ① 全体として本セミナーは大変よくアレンジされており、取上げられた科目も夫々適切なものであり、各参加者にとり非常に有益であった。
- ② “A”とした理由は概ね次の通り
 - ㊶ 講師の英語力が秀れており判り易かった。
 - ㊷ 実証的な説明も加わり理解を助けた。
 - ㊸ 視聴覚機材を有効に利用した。

③ “C”をつけた理由

前述“A”の裏返しであるが、英語力が十分でないのは止むを得ないとしても声が低く聞きとりにくかった。(このためマイク使用の提案が強かった。でも講義の後半には実際にマイクを使用した)

テキストを棒読みにした講師もいた。質問にも的を得た回答がなかったなど。

(2) 将来のプログラム作成に参考となる事項

- ① 英語力のある講師の選択
- ② 宿舎・交通手段等に対するキメの細かい配慮
- ③ 広く浅くでなく、狭くともよいから重点科目を設定しこれに焦点を絞った講義がほしいかった。
- ④ 講師間の講義に係わる事前調整
- ⑤ 視聴覚機材をもっとふんだんに活用する事
- ⑥ マイクを使用する事
- ⑦ 土曜日を研修日として活用したら如何
- ⑧ 関連のある科目はなるべく相前後して講義をしてほしい
- ⑨ JICAの出先で日本語の事前研修を行なり事
- ⑩ 研修旅行はとても有益であった。(講義でうけた印象を自らの眼で確かめる事が出来るし、日本古来の伝統・文化にも触れる事が出来たから)
- ⑪ 研修旅行の期間については短かすぎるという意見が圧倒的に多かった

(3) 帰国後の計画

A) 研修成果適用の可能性

- ① 夫々国情が違うので仲々適用は困難であるが、ステップ・バイ・ステップで可能と考える。
- ② 兎に角、日本で学んだ事を自分の仕事を遂行する上で徐々にではあるが活かして行きたい。
- ③ 単に日本で学んだ事のコピーを追い求めるだけではなく、自分の国特有の技術を動員するよう心がけるべきだ。(こういう考え方を本セミナーから学びとった)
- ④ 具体的に言うと日本人の勤勉さに触れて、前記③の感を深くした。
- ⑤ 研修の成果を随時関係者に知らせる努力をしたい。(日本だって途上国の時代があったわけであるから、吾々としても常に希望をいだいて前進したい)

(4) JICAに対する要望(前記Ⅲ-24)と重複するが敢て列記する)

- ① セミナーの目的、最終評価を自国の関係省庁に送ってほしい
- ② JICAとの共同開発研究
- ③ JICAよりの援助の増額

- ④ 日本専門家の派遣
- ⑤ フォロー・アップセミナーの開催
- ⑥ 関係省庁の役人をもっと多く日本に招いてほしい
- ⑦ 日本銀行関係の資料
- ⑧ 運輸・交通システムの資料

(5) 日本の印象

- ① 日本経済発展の目ざましさに驚嘆
- ② 親切，友好的，礼儀正しさ，勤勉性
- ③ 世界で最も安全で綺麗な国
- ④ 日本の伝統的文化と近代技術の共存
- ⑤ 但し，コミュニケーション上問題あり，（英語の判る人が案外少ないのでビックリ，日本政府は今后英語教育にもっと力を入れるべきだ）
- ⑥ 計画の立案と実行のコーディネーションの良さ
- ⑦ 研修旅行は色々な事を教えてくれた。（例えば地域開発の素晴らしさ，日本古来の文化 etc）

(6) その他

添付書類 総合エバ・シート

以上

総合エバシート

GENERAL EVALUATION SHEET

Please tick those boxes one in each of the sections (a) to (e), and, in appropriate cases, the boxes in (f).
In all cases the boxes ticked should be those which correspond most nearly to your views on the suitability of the study training given.

(a) <u>Subjects</u>	<input type="checkbox"/> 1	Coverage too broad
	<input type="checkbox"/> 2	Coverage just right
	<input type="checkbox"/>	Coverage incomplete
(b) <u>Level</u>	<input type="checkbox"/>	Too advanced
	<input type="checkbox"/> 3	Just right
	<input type="checkbox"/>	Too elementary
(c) <u>Clarity of Lectures</u>	<input type="checkbox"/> 3	Very clear
	<input type="checkbox"/> 9	Adequate
	<input type="checkbox"/> 1	Difficult to follow
(d) <u>Treatment</u>	<input type="checkbox"/> 6	Not enough practical
	<input type="checkbox"/> 7	Just right
	<input type="checkbox"/>	Not enough theoretical
(e) <u>Duration</u>	<input type="checkbox"/> 4	Too short
	<input type="checkbox"/> 5	Just right
	<input type="checkbox"/> 4	Too long
(f) <u>Others</u>	<input type="checkbox"/> 7	Language problems
	<input type="checkbox"/> 2	Background of participants too diversified
	<input type="checkbox"/> 4	

This sheet is supplementary for the Final Report.

Economic Development Seminar in 1985

Duration : 9 th September to 2 1st October

Time : Morning Session A.M.10:00 to 12:30

Afternoon Session P.M. 2:00 to 4:30

Evaluation

Date	Contents	Lecturer	A	B	C
(A.M.) Sep.9th	Opening Exercise and Orientation				
(P.M.)	Role of Japan's Economy in the World	Mr.Kunio Miyamoto, Deputy Director General, Coordination Bureau, E.P.A.	2	12	0
(A.M.) 10th	Economic Planning	Mr.Mitsuo Housen Deputy Director, Planning Division, Planning Bureau, E.P.A.	2	11	1
OP.M.)	Industrial Policy	Mrs.Michiko Yamashita, Deputy Director, Industrial Economic Affairs Division, Coordnation Bureau, E.P.A.	1	11	2
(A.M.) 11th	Industrial Development	Dr.Akio Hosono Assistant Professor, Tukuba	7	7	0
(P.M.)	Development of Human Resource	Mr.Yoshio Sasajima Deputy Director, Policy and Planning Division, Minister's Secretariat, Ministry of Labour.	2	12	0
(A.M.) 12th	Rural and Agricultural Development	Dr.Fumio Egaitsu, Professor, Tokyo University.	6	8	0
(P.M.)	Failure Talk about Economic Development of Japan	Dr.Itsru Sakura, Professor, Gakushuin University.	0	12	2
13th	Study Tour in Tsukuba 11:00 Visiting president 13:00 Lft. Center 13:30 EXPO 16:00 Lft. EXPO				
17th to 18th	Japan's Economic Development Process	Dr.Kazushi Ohkawa, Executive Director, International Development Center of Japan.	10	2	0
(A.M.) 19th	Fiscal and Monetary Policy	Mr.Jun Saito, Director, Finance Division, Coordination Bureau, E.P.A.	1	11	2
(P.M.)	Technological Development Policy	Mr.Hisashi Yaginuma, Economist, Research Institute for Capital Formation, The Japan Development Bank.	1	9	4
(A.M.) 20th	Regional Development Policy	Mr.Sadahiro Takatsu, Deputy Director, Administration Division Planning and Coordination Bureau, National Land Agency.	0	14	0
(P.M.)	Economic Development and Environment Preservation	Mr.Tsutsuya Tazima, Director, International Affairs Division, Environment Agency.	1	10	3
24th 28th	Study Tour in Kyoto, Toba and Nagoya				
(A.M.) 30th	Free				
(P.M.)	Ja;an's Economic Cooperation	Mr.Tatsuo Ueno, Director, Second Economic Coopération Division, Coordination Bureau, E.P.A.	3	11	0

Date.	Contents	Lecturer	A	B	C
(A.M.) Oct.1st.	Trade and Investment for Economic Cooperation	Mr. Shiro Tanaka, Director, Overseas Affairs Division, The Export-Import Bank of Japan	9	5	0
(P.M.)	Role of Overseas Economic Cooperation Fund (O E C F)	Mr. Yoshihiko Kohno, Director, Project Coordination Division, Coordination Department, O E C F.	4	10	0
(A.M.) 2nd (P.M.)	Free Role of Japan in Economy of Developing Countries	Mr. Hirashima, Director, Overseas Affairs Division, Institute of Developing Economies.	3	11	0
3rd	Technological cooperation and Japan International Cooperation Agency (J I C A)		6	8	0
(A.M.) 4th (P.M.)	Outline of Development in Hokkaido Prefecture Free	Mr. Shuji Koiso, Senior officer, Hokkaido Development Agency.	3	11	0
7th to 12th	Study Tour in Hokkaido				
14th to 18th	Country Report				
21th	Evaluation and Reflection Closing Farewell Party	Mr. Tatsuo Ueno, Director, Second Economic Cooperation Division, Coordination Bureau, E.P.A.			

5. フォローアップチーム派遣に係る研修事業部長書簡及び質問書

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

Date: June 25, 1986

Dear Sir,

I am writing to you with the hope that you are actively engaged in your work in excellent health and in high spirits since you returned to your country after training in Japan.

It is a pleasure for me to inform you that Japan International Cooperation Agency is doing utmost efforts to expand and improve its technical training programs year after year. We have accepted a total of 57,942 participants from developing countries during the period of 1954 - March 1986. In fiscal 1986, we plan to accept about 4,500 participants and conduct 226 group training courses and seminars.

In programing future training courses and seminars, we endeavour to place emphasis not only on increasing the number of participants to meet the augmenting requests from developing countries but also on improving the quality of training programs.

For this purpose we would like to know how and to what extent the ex-participants in our training courses/seminars are making use of knowledge and technology they have acquired in Japan and to hear what suggestion and recommendation they have for the betterment of our courses/seminars.

It is also important to brush-up and up-grade what you have learned in Japan. Therefore, JICA dispatches a technical follow-up team to participating countries every year to provide you with information on latest developments in your field of activity.

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

This year JICA has decided to send to your country a follow-up team in the field of your expertise. Details of its schedule and the questionnaire are enclosed herewith .

We shall be grateful if you could extend your kind cooperation to our visiting team during its stay in your country.

We are looking forward to seeing you.

Yours faithfully

Kazuo Okabe,
Director,
Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

Follow-up Team for Ex-participants of the Seminar in Economic Development

1. Objective: The Follow-up Team will visit ex-participants' organizations and related organs for the purpose of offering guidance through consultation, evaluating the results of training in Japan and assessing problems and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programs.
2. Period: From 5th of August, 1986 to 24th of August 1986.
For details, please refer to the tentative schedule attached herewith.
3. Members:
 - a. Mr. Yuzo Kobayashi
Director, Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau, Economic Planning Agency
 - b. Ms. Hiroko Kojima
Officer, Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau, Economic Planning Agency
 - c. Mr. Kanehiro Kawakami
Training Officer, Third Training Division,
Training Affairs Dept., Japan International Cooperation Agency

Cooperation Requested to You

1. The following team would like to request you to prepare a short report according to the Questionnaire and send it to the following address so that your report may reach the team before it meets you.

Address: Oficina Representativa en el Peru
Av. Salaverry 3150-San Isidro, Lima-Peru-Apto.
No. 110417 Lima 17

2. The team would like to visit some organizations in your country according to the schedule.
The appointment with the persons to meet, the date and place of the meeting will be arranged by JICA Office.
The further information on its visit will be provided to you directly or through your superior.

Thank you very much for your cooperation.
The team is looking forward to meeting you.

Tentative Schedule of the Follow-up Team for Ex-participants in
The Economic Development Seminar,
by JICA

- August 5(Tue) Leave Tokyo 14:55 by UA-808. Arrive Los Angeles 8:40.
Leave Los Angeles 11:30 by AR-385. Arrive Lima 23:25.
- 6(Wed) M - Meeting among the Team Members.
A - Visit Japanese Embassy, JICA Office and OECF Office.
- 7(Thu) M - Visit Ministerio de Pesqueria and Integracion MITI.
A - Visit Instituto Nacional de Planificacion and Empresa Minera del
Centro del Peru.
- 8(Fri) M - Lecture, Meeting.
A - Write Report.
- 9(Sat) Free
- 10(Sun) Leave Lima 00:30 by RG-883. Arrive Rio de Janeiro 7:25.
Leave Rio de Janeiro 8:45 by RG-902. Arrive Asuncion 12:05.
- 11(Mon) M - Visit Japanese Embassy, JICA Office.
A - Visit Ministerio de Agricultura y Ganaderia.
- 12(tue) M - Visit Ministerio de Hacienda and Ministerio de Industria y
Comercio.
A - Visit Secretaria Tecnica de Planificacion.
- 13(Wed) M - Lecture, Meeting.
A - Write Report.
- 14(Thu) Leave Asuncion 15:15 by RG-903. Arrive Sao Paulo 19:05.
- 15(Fri) M - Visit Consulado Geral, JICA Office.
A - Visit Secretariat of Economic and Planning.
- 16(Sat) Free.
- 17(Sun) Leave Sao Paulo 12:00 by VP-236. Arrive Brasilia 13:30.
- 18(Mon) M - Visit Japanese Embassy and JICA Office.
A - Visit Secretaria de Planejamento, CODEVASF.
- 19(Tue) Leave Brasilia 7:30 by TR-177. Arrive Sao Paulo 8:50.
Leave Sao Paulo 11:00 by SC-934. Arrive Porto Alegre 12:25.
A - Visit Consulado Geral and JICA Office.
- 20(Wed) M - Visit Banco Sul Brasileiro S/A and Planning Secretariat
of State of Rio Grande do Sul.
A - Lecture, Meeting.
- 21(Thu) Leave Porto Alegre 9:00 by TR-706. Arrive Rio de Janeiro 11:45.
A - Visit Consulado Geral and JICA Office.
- 22(Fri) M - Visit Banco Nacional de Desenvolvimento Economico E Social.
A - Write Report.
Leave Rio de Janeiro 23:55 by JL-063.
- 24(Sun) Arrive Tokyo 13:15.

Note: M stands for Morning
A stands for Afternoon

Tentative Schedule of the Follow-up Team for Ex-participants in
The Economic Development Seminar,
by JICA

- August 5(Tue) Leave Tokyo 14:55 by UA-808. Arrive Los Angeles 8:40.
Leave Los Angeles 11:30 by AR-395. Arrive Lima 23:25.
- 6(Wed) M - Meeting among the Team Members.
A - Visit Japanese Embassy, JICA Office and OECF Office.
- 7(Thu) M - Visit Ministerio de Pesqueria and Integracion MITI.
A - Visit Instituto Nacional de Planificacion and Empresa Minera del
Centro del Peru.
- 8(Fri) M - Lecture, Meeting.
A - Write Report.
- 9(Sat) Free
- 10(Sun) Leave Lima 00:30 by RG-883. Arrive Rio de Janeiro 7:25.
Leave Rio de Janeiro 8:45 by RG-902. Arrive Asuncion 12:05.
- 11(Mon) M - Visit Japanese Embassy, JICA Office.
A - Visit Ministerio de Agricultura y Ganaderia.
- 12(Tue) M - Visit Ministerio de Hacienda and Ministerio de Industria y
Comercio.
A - Visit Secretaria Tecnica de Planificacion.
- 13(Wed) M - Lecture, Meeting.
A - Write Report.
- 14(Thu) Leave Asuncion 15:15 by RG-903. Arrive Sao Paulo 19:05.
- 15(Fri) M - Visit Consulado Geral, JICA Office.
A - Visit Secretariat of Economic and Planning.
- 16(Sat) Free.
- 17(Sun) Leave Sao Paulo 12:00 by VP-236. Arrive Brasilia 13:30.
- 18(Mon) M - Visit Japanese Embassy and JICA Office.
A - Visit Secretaria de Planejamento, CODEVASF.
- 19(Tue) Leave Brasilia 7:30 by TR-177. Arrive Sao Paulo 8:50.
Leave Sao Paulo 11:00 by SC-934. Arrive Porto Alegre 12:25.
A - Visit Consulado Geral and JICA Office.
- 20(Wed) M - Visit Banco Sul Brasileiro S/A and Planning Secretariat
of State of Rio Grande do Sul.
A - Lecture, Meeting.
- 21(Thu) Leave Porto Alegre 9:00 by TR-706. Arrive Rio de Janeiro 11:45.
A - Visit Consulado Geral and JICA Office.
- 22(Fri) M - Visit Banco Nacional de Desenvolvimento Economico E Social.
A - Write Report.
Leave Rio de Janeiro 23:55 by JL-063.
- 24(Sun) Arrive Tokyo 13:15.

Note: M stands for Morning
A stands for Afternoon

FOLLOW-UP SURVEY OF EX-PARTICIPANTS
IN
THE SEMINAR ON ECONOMIC DEVELOPMENT

No. 1

QUESTIONNAIRE

(Please write in block letters or type)

I. GENERAL QUESTIONS

1. Full name : _____
(Please underline family name)

2. Date of birth: _____ Age: _____

3. Present home address: _____
(Street and Number) (City) (State/Country)

(Zip Code) (Cable/Telex) (Telephone)

4. Year of your participation: _____

5. Your employer and position at the time of your participation in the seminar

(1) Employer: _____

(2) Address : _____
(Street and Number) (City) State/Country

(Zip Code) (Cable/Telex) (Telephone)

(3) Position: _____

(4) Duties (Please describe briefly):

6. Your employer and position at present:

(1) Employer: _____

(2) Address : _____
(Street and Number) (City) State/Country

(Zip Code) (Cable/Telex) (Telephone)

(3) Position: _____

(4) Duties (Please describe briefly):

7. Please draw an organizational chart (illustrating the relation between the Ministry concerned and your department/division)

8. If you changed your job after your participation in the seminar
How many times ? Times
Please fill out the following

	Name of organization	Post	Duties
(1)			
(2)			
(3)			
(4)			

11. Evaluation of the Seminar you participated in.

No.3

1. Please evaluate to what extent you could utilize the knowledge and techniques which you had gained in your seminar. Kindly indicate the adaptability of them to your present job with a mark (/) below. Please write your comments, and if your evaluation is A or B, please give a detailed example on the next page.

(A : very adaptable B : adaptable C : not so adaptable)

No	ITEM	Adaptability to your job		
		A	B	C
1	Role of Japan's Economy in the World			
2	Economic Planning			
3	Industrial Policy			
4	Industrial Development			
5	Development of Human Resource			
6	Rural and Agricultural Development			
7	Japan's Economic Development Process			
8	Fiscal and Monetary Policy			
9	Technological Development Policy			
10	Regional Development Policy			
11	Economic Development and Environment Preservation			
12	Japan's Economic Cooperation			
13	Trade and Investment for Economic Cooperation			
14	Role of Overseas Economic Cooperation Fund			
15	Technological cooperation and JICA			
16	Outline of Development in Hokkaido Prefecture			
17	Observation tour to regional Development areas			

Your comments or examples

No. 4

(1) _____

(2) _____

(3) _____

(4) _____

(5) _____

2. Please circle the appropriate rating number for Curriculum Design.

(a) Time allocation to:

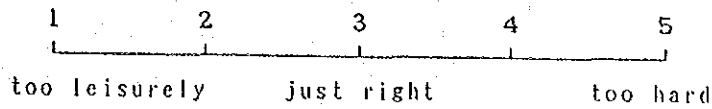
Lectures
1 2 3 4 5
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
too little just right too much

Discussions
1 2 3 4 5
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
too little just right too much

Exercises & Case studys
1 2 3 4 5
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
too little just right too much

Observations
1 2 3 4 5
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
too little just right too much

(b) Intensity



If you marked 1 or 2 above, please write your comments.

3. Programming of the topics

Do you think that the topics were programmed systematically?
If not, please write your suggestion to improve the seminar much better.

4. Besides the above items, are there any items which you would like to recommend us to add?

- (1) _____
- (2) _____
- (3) _____
- (4) _____

5. If personal improvement(s) has(have) been made in your job or study since you attended the seminar, please check below.

- No improvements
- Yes, there is/are improvement(s)

If yes, please check where applicable:

- working condition in obtaining another (better) job
- responsibility contents of work
- prospects for your future professional recognition
- salary-rise international contacts

Please briefly explain what you have checked:

6. Do you have any suggestions for improvement of the seminar?

(1) Duration:

(2) Programme:

(3) Lecture:

(4) Methodology:

(5) Text:

(6) Observation Tour:

(7) What government agency do you think is most suitable to its staffs to join the seminar?

(8) Please state the most suitable length of a participant's experience in planning economic development policy and his post in the agency you mentioned in the parenthesis 7. for joining the seminar.

(9) Others:

III. Follow up activities for ex-participants

1. Do you have any special requests concerning the exchange of information in the field of Economic development?

2. Do you find the follow-up team to be useful in your work?

3. Others:

IV. Training of your staffs

In connection with your own training plans for your staffs, please write below any further comments or requests to us.

V. Your idea about improvement of international cooperation or transfer of technology

VI. Others

If you have any suggestions to the Economic Planning Agency or JICA concerning the seminar, Please describe them below.

Thank you very much for your cooperation

SUMMARY REPORT

THE TECHNICAL FOLLOW-UP TEAM

FOR

THE EX-PARTICIPANTS OF THE SEMINAR ON ECONOMIC DEVELOPMENT

I. GENERAL

It is our great pleasure to have this opportunity to visit the Republic of Peru as The Technical Follow-up Team for the ex-participants of The Seminar on Economic Development.

As is well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has been conducting a number of training courses in various kinds of fields year after year, - and also dispatching follow-up teams in order to expand and improve those training programs.

Concerning the seminar on Economic Development, - about twenty years have passed since it was started, - and 306 participants from 51 different countries, including 18 participants from Peru, have attended the seminar since then.

Seizing the occasion, we hope to make this seminar better than before with the benefit of the advice and suggestions from ex-participants of this seminar and the authorities concerned.

Before leaving this country, the team hereby sub

mits a short summary report on its 5-day follow-up activities since August 5, 1986, for the purpose of reference.

The team members would like to express their deepest gratitude to the ex-participants as well as the authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation extended to them during the whole period of their stay in Peru.

II. OBJECTIVES

The main purposes of the dispatch of this team are:

- 1) to measure and evaluate the extend of utilization of what the ex-participants had gained in Japan - and inquire the opinions and suggestions of themselves and their superior officials so that we can make the future program more effective and fruitful.
- 2) to hold a lecture-discussion meeting on some topics of economic development not only with the ex-participants but also with all staffs who are concerned about our work.

III. TEAM MEMBERS

- Mr. Yuzo Kobayashi; Director,
Second Economic Cooperation Div.,
Coordination Bureau,
Economic Planning Agency,
as Team Leader

- Ms. Hiroko Kojima; Officer,
Second Economic Cooperation Div.,
Coordination Bureau,
Economic Planning Agency

- Mr. Kanehiro Kawakami; Training Officer,
Third Training Division,
Training Affairs Dept.,
Japan International Cooperation
Agency (JICA)

IV. MEETING WITH THE EX-PARTICIPANTS AND OTHERS

During its stay in Lima from August 5 until August 9 of 1986, the team was able to meet only 5 out of 16 ex-participants who had attended the Seminar since 1962 due to the change of their occupations and other reasons, and a number of officials of the authorities concerned.

The names of the ex-participants and officials interviewed are given in the list attached to this report.

V. LECTURE-DISCUSSION MEETING

On 8th. August, the team had a Lecture-Discussion meeting with the ex-participants and others at which the team leader gave a talk on some aspects of Economic Development and its planning in Japan.

VI. MAIN FINDINGS AND RECOMMENDATIONS

- 1) The team was pleased to know from the ex-participants that they thought the seminar had been useful

in making them better equipped in performing their work.

- 2) In addition, they offered some useful comments and suggestions to improve the performance of the seminar, as enumerated in the following;
 - a) The duration of the seminar was appropriate in general. But extension of the term, 2 months - for the Seminar was requested by some persons.
 - b) The seminar program was good. One suggestion - made was that a topic on the role of Japanese management of big corporations and also small firms should be added to the curriculum.
 - c) Another suggestion offered was that the seminar could focus on some specific subjects such as Japanese investment abroad, and Sciences - and its role for development.
 - d) As for Lecture, it was suggested that participation of some Japanese executive or planner - with direct experience in the third world as Lecturer for the seminar should be considered.
 - e) As for the Government organization most suitable to send participants to the seminar, National Planning Institute and Ministry of Economic & Finances are thought to be the organizations that will benefit most from this seminar.
 - f) It is important that a participant selected - must have enough background to follow the contents of the seminar. It is desirable that he has 3 years or more experience in formulation and appraisal of regional or national plans/projects.

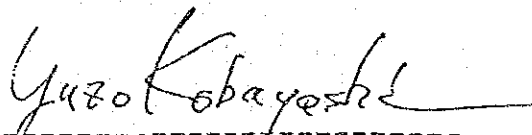
- g) There should be a follow-up training for interested ex-participants which will give them a opportunity to acquire advanced knowledge in the field of economic development.
- h) Ex-participants will greatly appreciate being distributed a technical literature giving information on economic development.
- i) Regarding the participation of the seminar -- from Peru, no one has attended the seminar -- since 1981. So the team suggested that the -- authorities concerned should consider to participate in the seminar in the future.

VII. CONCLUDING REMARKS

Through the follow-up activities in Peru, we are impressed by the fact that the ex-participants have been keeping vivid memories of the seminar, and gave us positive opinions, though all of them participated in the seminar five to twenty years ago.

It is sincerely hoped that these opinions will be given due consideration by the authorities concerned so that steps are taken accordingly, to the utmost extent possible, for the betterment of the seminar in the future.

Lima, 9th August, 1986.



Yuzo Kobayashi

Team Leader

APPENDIX I

INTERVIEWED EX-PARTICIPANTS

1. MR. ERNESTO CHOY LO
Consultant, Junta del Acuerdo de Cartagena
2. MRS. ROSA ROMERO DE CONRAD
Engineer, Organization of American States
3. MR. ADALBERTO VARGAS
Engineer, Ministry of Industry, Commerce, Tourism
and Integration
4. MR. EMILIO COSTA
Consultant, Consorcio Gerencial S.A.
5. MR. FELIPE CEBRECA
Adviser, Banco Central de Reserva del Perú

INTERVIEWED OFFICIALS

1. MR. CARLOS E. BARDALEZ
Supervisor General
Export Department, CENTRONIN PERU
2. MR. GERMAN SUAREZ CHAVEZ
Gerente de Investigación Económica
Banco Central de Reserva del Perú

Summary Report

The Technical Follow-up Team

For

The Ex-participants of the Seminar on Economic Development

I GENERAL

It is our great pleasure to have this opportunity to visit the Republic of Paraguay as the technical follow-up team for the ex-participants of the Seminar on Economic Development.

As is well known, Japan International Cooperation Agency has been conducting a number of training courses in various kinds of fields year after year, and also dispatching follow-up teams in order to expand and improve those training programs.

Concerning the seminar on Economic Development, about twenty years have passed since it was started, and 306 participants from 51 different countries including 14 participants from Paraguay have attended the seminar since then.

Seizing this occasion, we hope to make this seminar better than before with the benefit of the advice and suggestions from ex-participants of this seminar and the authorities concerned.

Before leaving this country, the team hereby submits a short summary report on its 4-days follow-up activities since August 10, 1986, for the purpose of reference.

The team members would like to express their deepest gratitude to the ex-participants as well as the authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation extended to them during the whole period of their stay in Paraguay.

II OBJECTIVES

The main purposes of the dispatch of this team are:

- 1) to measure and evaluate the extent of utilization of what the ex-participants had gained in Japan and inquire the opinions and suggestions of themselves and their superior officials so that we can make the future program more effective and fruitful.
- 2) to hold a lecture discussion meeting on some topics of economic development not only with the ex-participants but also with all staffs who are concerned about our work.

III TEAM MEMBERS

- Mr Yuzo Kobayashi: Director,
Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau,
Economic Planning Agency,
as Team Leader.

- Ms Hiroko Kojima: Officer,
Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau,
Economic Planning Agency

- Mr Kanehiro Kawakami: Training Officer,
Third Training Division
Training Affairs Dept.,
Japan International Cooperation Agency

IV MEETING WITH THE EX-PARTICIPANTS AND OTHERS

During its stay in Asuncion from 10 August to 13 August 1986, the team was able to meet 4 out of 14 ex-participant who had attended the Seminar since 1962 and some officials of the authorities concerned interested in sending participants to the seminar.

The names of the ex-participants and officials interviewed are given in the list attached to this report.

V LECTURE - DISCUSSION MEETING

On 12th August, the team had a Lecture-Discussion Meeting with the ex-participants and others at which the team leader gave a talk on some aspects of economic development and its planning in Japan.

VI MAIN FINDINGS AND RECOMMENDATIONS

1) the team was pleased to know from the ex-participants that they thought the seminar had been useful in making better equipped in performing their word.

2) The team was gratified to note that authorities concerned are highly appreciative of the usefulness of the seminar and keenly interested in getting increasing opportunities to participate in it.

3) In addition, they offered some useful comments and suggestions to improve the performance of the seminar, as enumerated in the following.

a) the seminar program was generally good and was programmed systematically.

However, one suggestion made was that there were some repetition of topics.

b) Another suggestion offered was that a topic on mechanism of economic model for farm products and its marketing system, and some research experience in economic analysis be added to the curriculum.

c) It was also pointed out that even though it was difficult for participating countries to adopt or carry out the method of economic development that participants gained in Japan because of extremely difference of Economic situation between Japan and participating countries, it was very useful to take that method as a model for their countries.

d) Country report prepared by participants should focus on a specific theme in order to discuss among them effectively and fruitfully.

e) The common needs and indigenous conditions of the participating countries should be considered and participants should be separated by region at the session of country report presentation.

f) There is the problem of language difficulty. Unless a participant has a sufficient command of spoken and written English, it is almost impossible for him to join any discussion due to his language restriction.

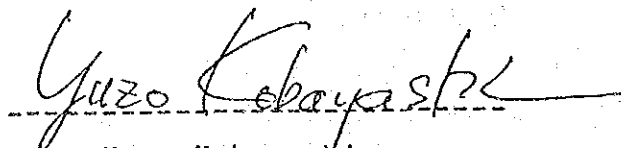
- g) More discussion, case studies and observation tours might be efficient.
- h) Many more day trips to cover such small scale farms were felt desirable.
- i) The offices that are most suitable to send participants to this seminar are considered to be government organizations having planning functions such as, Economic planning Agency, Ministry of Agriculture and Ministry of Industry.
- J) As for accomodation, JICA International Training Centers, such as, Tokyo International Center (TIC) should be arranged for participants in order to promote international good-will among them.

VII CONCLUDING REMARKS

Although the number of ex-participants and officials of the anthorties concerned the team was able to meet was very limited due to the shortness of its working days and other reasons, the meeting and discussions that took place between them and the team members were very cordial and productive.

It is sinarely hoped that these suggestions are highly appreciated for further improvement of the seminar.

Asuncion, 12 August, 1986



Yuzo Kobayashi

Team header

Interviewed Ex-participants

1. Dr. Basilio Nikiphoroff
Technical Advisor. Technical Cabinet
Ministerio de Agricultura y Ganaderia

2. Ing. Agr. Miguel Antonio Lopez
Director del Mercado de Abasto de la Municipalidad de
Asuncion.

3. Dr. Alberto Tomas Ramirez Patiño
Gerente General de la Cooperacion de Aguas Sanitarias
(CORPOSANA)

4. Dr. Epifanio Salcedo
. Presidente del Fondo Ganadero Dependiente del Banco
Central del Paraguay.

. Decano de la Facultad de Ciencias Economicas de la
Universidad Nacional de Asuncion.

Interviewed Officials

1. Dr. Fulvio Monges Ocampos
Secretario Ejecutivo de la Secretaria Tecnica de Planifica-
ción Económica.

2. Lic. Guillermo Sosa
Coordinador de la División de la Cooperación Asistencia
Técnica de la Secretaría Técnica de Planificación.

3. Ing. Agr. Oscar Meza Rojas
Director del Gabinete Técnico
Ministerio de Agricultura y Ganadería

6. 3) 英文所見(ブラジル)

SUMMARY REPORT

The Technical Follow-up Team

For

The Ex-participants of the Seminar on Economic Development.

I - GENERAL

It is our great pleasure to have this opportunity to visit The Federative Republic of Brazil as the technical follow up team for the ex-participants of the Seminar on Economic Development.

As is well known, Japan International Cooperation Agency has been conducting a number of training courses in various kinds of fields year after year, and also dispatching follow-up teams in order to expand and improve those training programs.

Concerning the seminar on Economic Development, about twenty years have passed since it was started, and 306 participants from 51 different countries including 17 participants from Brazil have attended the seminar since then.

Seizing this occasion, we hope to make this seminar better than before with the benefit of the advice and suggestions from ex participants of this seminar and the authorities concerned.

Before leaving this country, the team hereby submits a short summary report on its 8-day follow-up activities since August 14, 1986, for the purpose of reference.

The team members would like to express their deepest gratitude to the ex-participants as well as the authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation extended to them during the whole period of their stay in Brazil.

II - OBJECTIVES

The main purposes of the dispatch of this team are:

- 1) To measure and evaluate the extent of utilization of what the ex-participants had gained in Japan and inquire the opinions and suggestions of themselves and their superior officials so that we can make the future program more effective and fruitful.
- 2) To hold a lecture discussion meeting on some topics of economic development not only with the ex-participants but also with all staffs who are concerned about our work.

III - TEAM MEMBERS

- Mr. Yuzo Kobayashi: Director,
Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau,
Economic Planning Agency,
As Team Leader

- Ms. Hiroko Kojima: Officer,
Second Economic Cooperation Division,
Coordination Bureau,

- Mr. Kanehiro Kawakami: Training Officer,
Third Training Division
Training Affairs Dept.,
Japan International Cooperation Agency

IV - MEETING WITH THE EX-PARTICIPANTS AND OTHERS

During its stay in Brazil from 14 August to 21 August 1986, the team was able to meet 10 out of 17 ex-participants who had attended the seminar since 1962 and some officials of the authorities concerned interested in sending participants to the seminar.

The names of the ex-participants and officials interviewed are given in the list attached to this report.

V - LECTURE - DISCUSSION MEETING

On 20 August, the team had a Lecture - Discussion meeting with the ex-participants and others at which the team leader gave a talk on some aspects of economic development and its planning in Japan.

VI - MAIN FINDINGS AND RECOMMENDATIONS

- 1) The team was gratified to note that the authorities concerned are highly appreciative of the usefulness of the seminar and keenly interested in getting increasing opportunities to participate in it.
- 2) The team was also pleased to know from the ex-participants that they thought the seminar had been useful in making them better equipped in performing their work.
- 3) In addition, they offered a number of useful comments and suggestions to improve the performance of the seminar, as enumerated in the following:
 - a) The duration of the seminar was considered to be appropriate in general. However, some ex-participants thought that it should be lengthened to 3 months, because extending the term of the seminar (by one and a half months) may make it possible to meet the demand by providing more discussions with lectures and more case-studies in order to understand different aspects of economic development and its policy on Japan and participating countries.
 - b) The seminar program was good and organized well. However, the following items were requested to add in the seminar.
 - Economic policy of agriculture.
 - Small and medium businesses by governmental incentives.
 - Solution of third world's problems.
 - Japanese technology adapted to third world.
 - Great marketing structure of Japanese economy.
 - Visit to Federation of Economic Organization and University.
 - Contact with leaders of labor unions.
 - c) It will be very helpful to the participants if materials/texts can be distributed in advance in order to facilitate the comprehension of the subjects presented.
 - d) It will be valuable to the ex-participants if an information system can be made a built-in part of the seminar, whereby materials on recent progress of economic

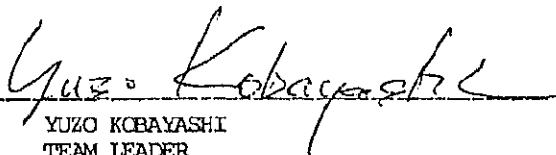
- e) There should be a follow-up training for interested ex-participants which will give them an opportunity to acquire advanced knowledge on economic development.
- f) The officies that are most suitable to send participants to this seminar are considered to be government organizations having planning functions, but it is thought desirable to send more officials from regional/local offices than from the central government.

VII - CONCLUDING REMARKS

We the team members believe that the meetings and discussions held with the ex-participants and officials of the authorities concerned were cordial, frank and deep enough to produce many constructive comments and suggestions.

We sincerely hope that these suggestions will be given due consideration so that steps are taken accordingly, to the ut-most extent possible, for the betterment of the seminar in the future.

Rio de Janeiro, 22 August, 1986.


YUZO KOBAYASHI
TEAM LEADER

APPENDIX - I

INTERVIEWED EX-PARTICIPANTS

- 1 - MS.MIRIAM KHOURY
Economist, Development Bank of Minas Gerais
- 2 - MS.EMILIA TICAMI
Technical Assistant, Secretary of Economic & Planning
- 3 - MR. RONALDO CAMPOS CARREIRO
Advisor, SUBIN/SEPLAN
- 4 - MR.SERGIO LUIZ BORZINO FERREIRA DA SILVA
Manager of Planning Dept.
San Francisco River Valley Development Company
- 5 - MR.VITOR FERNANDO REICHELT
Technician, Foundation of Science & Technology
- 6 - MR.LEODEGAR JOST
Finance Director, Caixa Econômica Estadual
- 7 - MR.ANTÔNIO CARLOS COUTINHO FRAQUELLI
Economist, Fundação de Economia e Estatística
- 8 - MR.DARLAN CONTE
Superintendente, Cia. IOCHPE de Participações
- 9 - MR.CORALIO BRAGA PARDI CABEDA
Economist, Banco Regional de Desenvolvimento do Extremo Sul.
- 10 - MR.ERNANI TEIXEIRA TORRES FILHO
Manager, Banco Nacional de Desenvolvimento Econômico e Social.

INTERVIEWED OFFICIALS

- 1 - MR.ANTONIO MARCIO F.COSTA
Chefe da Assessoria da Secretaria do Gabinete do Secretário de São Paulo.
- 2 - Presidente Fundação de Economia e Estatística

7. 帰国研修員リスト(昭和61年8月現在)

1) PERU EX-PARTICIPANTS LIST ON SEMINAR IN ECONOMIC DEVELOPMENT

	NAME	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	DURATION	備考
1	MR. JORGE VILLAORDUNA	Sub-Director of Export, Empresa Minera del Centro del Peru (CENTROMIN)	OROYA PERU	'81.5/21-'81.6/29	
2	MR. LUIS PONSE	Director of Programming Oficina Sectorial de Planificacion Secretary of State of Integration NICTI	AU DEL PARQUE NORTE S/N	'80.5/22-'80.6/30	死亡
3	MR. ERNESTO CHOY LO	Consultant, Junta del Acuerdo de Cartagena (ANDEAN GROUP)	AV. PASEO DE REPUBLICA No. 3895 LIMA PERU	'79.9/13-'79.10/23	86.9月 よりカナダ 在空
4	MR. ALBERTO SALAZAR VIRU	Advisor, Servicio de Inteligencia Nacional	CALL HOLBEIN IIO, SAN BORJA	'76.6/7-'76.7/13	
5	MR. MOISES ROSAS ROSAS	Director of Direction Operation Control Inspectoria General Ministerio de Comercio	CALLE ALFA C-55, URB. JUAN XXIII SURQUILLO, LIMA, PERU	'75.4/10-'75.5/20	
6	MRS. ROSA ROMERO CORCUERA	Principal specialist, Organizacion de les Estados Ameri(OEA)	8620 ATWELL RD, POTOMAC MARYLAND, 20854, USA	'73.4/8-'73.5/19	USA 在空
7	MR. ADALBERTO VARGAS	Director of Studie & Technical Coopera- tion, Ministry of Industry, Commerce, Toursism & Integration (MICTI)	URB. CORPAC S/N. SAN ISIDRO LIMA 27, PERU	'73.4/8-'73.5/19	
8	MR. JUAN FERNANDO LORE CORTINEX	Director de Estudios Especiales Direccion General de Asuntos Economicos	URB. TOPPAC AMARU MANZ, NI-1 LIMA, PERU	'72.4/12-'72.5/21	
9	MR. LUIS GUIULFO ZENDER	President de Banco Industrial del Peru		'69. / -'69. /	
10	MR. ENILIO COSTA	Advisor, Consortio Genecial S.A.	GERMAN SCHEREIBER 175 OF. 401-SAN ISIDRO-LIMA 27, PERU	'68.4/10-'68.6/9	
11	MR. JOSE LYNCH	Technical Coordinator	AV. ANGAMOS 547 MIRAFLORES, LIMA, PERU	'67.1/11-'67.3/10	
12	MR. JOSE LUIS BROUSSET ESCOBAR	President, Banco Minero del Peru	AV. GRAU 1083-BARRANCO, LIME, PERU	'67.1/11-'67.3/10	
13	MR. ARAMANDO GALLEGOS	President of Directory	PASAJE ESMERALDO 160, CUZCO, PERU	'67.1/10-'67.3/9	
14	MR. JOSE LIZARRAGA REYES			'65.9/28-'65.10/13	メキシコ 在空
15	MR. CARLOS ZUZUANAGA FLORES	Direcor, Peruvian Center of Applied Research	CARABAYA 515, LIMA, PERU	'65.1/7-'65.3/6	
16	MR. FELIPE GEBREKOS	Advisor to General Director, Banco Central de Reserva del Peru	LOS GERANIOS 248 PERU	'65.1/7-'65.3/6	

2) PARAGUAY EX-PARTICIPANTS LIST ON SEMINAR IN ECONOMIC DEVELOPMENT

NAME	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	DURATION	備考
1 MR. TITO P. ROJAS CARDOZO	Secretaria Técnica de planificación del Desarrollo Económico Y Social de la Presidencia de la Republica	ITURBE No. 175, ASUNCION PARAGUAY	'85.9/5 - '85.10/23	
2 MR. MANUEL MINARDI	Coordinador Secretaria técnica de planificación Estadística y cuentas nacionales	ITURBE No. 175, ASUNCION PARAGUAY	'83.9/8 - '83.10/22	
3 MR. BASILIO NIKIPHOROFF	Technical Advisor Technical cabinet Ministry of Agriculture	PRE, FRANCO 479 C/14 DE MAYO ASUNCION PARAGUAY	'83.9/8 - '83.10/22	
4 MS. ADELA DE DUBINI	Administ & Finance Coordinator Oficina Nacional de Proyectos Secretaria Técnica de Planificación	OLIRA No. 685	'78.5/25 - '78.7/4	
5 MR. MIGUEL ANTONIO LOPEZ	Director, Mejoramiento del Mercado de Abasto, Municipalidad de Asuncion		'77.5/12 - '77.6/10	
6 MR. ARSENIO RAMON NIRO CANETE	Technical Assistant Regional Development Department Ministry of Industry and Commerce	AV. España 375	'76.6/3 - '76.7/13	
7 MR. HELIODORO MELCAREJO IDOYACA	Analyst, General Programator & Budget Ministry of Finance	AVENIDA YEGROS No. 2747, ASUNCION, PARAGUAY	'75.4/10 - '75.5/20	
8 MR. JOSE DE JESUS RIOS TORRES	Programmer, Planning Technical Secretariat for Economic Department	AZARA 2388, ASUNCION, PARAGUAY	'74.5/1 - '74.6/22	
9 MR. CORONEL CARLOS ALBERTO	Director Petroleum Corporation		'70.2 / - '70.3 /	
10 MR. EMILIO RAMIREZ RUSSO	Director Technical Cabinet, Ministry of Industry and Commerce	AVDA. ESPAÑA 323, ASUNCION, PARAGUAY	'68.4/9 - '68.6/8	
11 MR. FERNANDO-JOSE AYALA	Professor, Faculty of Economics, National University Asuncion	C/O NATIONAL UNIVERSITY ASUNCION, PARAGUAY	'67.1/11 - '67.3/10	
12 DR. EPIFANIO SALCEDO	Presidente, Fondo Canadeno	PALMA 468 1ER. PISO ASUNCION, PARAGUAY	'67.1/11 - '67.3/10	
13 MR. DONATO RENNA ESPINOLA	Technical Staff, Sub. Secretary commerce	ESPAÑA Y E.E.UU. ASUNCION, PARAGUAY	'65.9/27 - '65.11/17	
14 MR. ALBERTO TOMAS RAMIREZ-PATINO	General Manager, Water works Corporation		'65.1/9 - '65.3/8	

3) BRAZIL EX-PARTICIPANTS LIST ON SEMINAR ECONOMIC DEVELOPMENT

	NAME	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	DURATION	備考
1	MR.ERNANI TEIXEIRA TORRES FILHO	Manager, Health and Education Dept., Banco Nacional de Desenvolvimento Economico e Social-BNDES	AVENIDA CHILE 100 CENTRO RIO DE JANEIRO RJ BRAZIL	'84.5/17-'84.6/28	
2	MR. RONALDO CAMPOS CARNEIRO	Adviser, SUBIN/SEPLAN Secretaria de Planejamento da Presidencia de Republica	ESPLANADA DOS MINISTERIOS BLOCO K 40/456 BRASILIA BRASIL	'84.5/17-'84.6/28	
3	MS. MIRIAM KHOURY	Economist of the Plan and Program Planning Area Development Bank of Minas Gerais	RUA BAHIA 1600 BELOHORIZONTE BRAZIL	'83.9/8 -'83.10/22	
4	MS. EMILIA TICAMI	Technical Assistant Planning and Evaluation Secretary of Economy and Planning	AVENIDA MORUMBI S/NO PALACIO DOS BANDEIRANTES SP BRAZIL CEP 05598	'82.9/9 -'82.10/23	
5	MR. VICENTE DE PAULO BARRETO	None		'80.5/22-'80.6/27	無 職
6	MR. VITOR FERNANDO REICHELT	Technician, Planning Department Foundation of Science & Tehnology	RUA WASHINGTON LUIZ, 675 PORTO ALEGRE RIO GRANDE DO SUL BRAZIL	'79.9/13-'79.10/23	
7	MR. HERMINIO LIMA LUNARDI	Banco Sul Brasileiro s/a	RUA SETE DE SEYEMBRO 1028 PORTO ALEGRE 90000 BRAZIL	'78.5/25-'78.7/4	
8	MR. LEODEGAR JOST	Finance Director, Caixa Economica Estadual	AV. BORGES DE MEDEIROS, 521 PORTO ALEGRE RS, BRAZIL	'76.6/3-'76.7/13	
9	MR. SERGIO LUIZ BRAZINO FERREIRA DA SILVA	Manager, Planning Department, San Francisco River Valley Development	SGAN.601-LOTEI BRASILIA BRAZIL	'75.4/10-'75.5/20	
10	MR. ANTONIO CARLOS COITINHO FRAQUELLI	Economist, Fundacao de Economica E Estatistica	GENERAL VITORINO 77-40 ANRADAS PORTALEGRE RS, BRAZIL	'74.5/1 -'74.6/22	
11	MR. DARLAN CONTE	Superintendent of Projects, Cia. Iochpe de Participacao	RUA SIQUEIRA CAMPOS, 1069 50 MORA PORTO ALEGORE RS, BRAZIL	'74.5/1 -'74.6/22	
12	MR. LUIZ INACIO FRANCE DE MOCIOS	Special Adviser to the Govenor, Government of the State of Rio Grande do Sul	ANDRADAS, 487 SP. 607 PORTE ALEGRE-90.000, BRAZIL	'73.4/8 -'73.5/19	
13	MR. CYRO OKAMOTO	Officer, Dept. of Agriculture	AVENIDA ITABORAI, 328-SAO PAULO, ESTADO DE SAO PAULO-BRASIL	'73.4/8 -'73.5/19	
14	MR. CORALIO BRAGANCA PARDO CABEDA	Economist of Industrial Operations Area, Banco Regional de Desenvolvimento do Extremo Sul (BRDE)	c/o B.R.D.E. RUA URUGUAI, 155-10 ANDAR-90.000 PORTO ALEGRE (RS), BRASIL	'72.4/12-'73.5/19	
15	MR. PAULO T. LUCHAINGER	Director del Gabinete de Presupuesto Y Finanzas de la Secretaria de hacienda de Estado de Rio-Gande de Sul	RUA F	'61.7/12-'61.8/31	
16	MR. ORESTEO CONCALVES	Jefe de Gabinete de Estudios Economicos Y Financiacion de San Paulo	RUA CASSIPOS NO.141	'61.7/13-'61.8/31	
17	MR. JOSE SYLVIO DOS SAUTOS	Ingeneiro Asistente Y Estimacion de Material & Vsan de Ishikawajima Do Brasil Estaleiroo S/A	RUA 5 DE JULHO 125-202, COPACABANA, RIO DE JANEIRO, BRASIL	'61.7/13-'61.8/31	

